週刊 YEAR BOOK

1902 明治35年

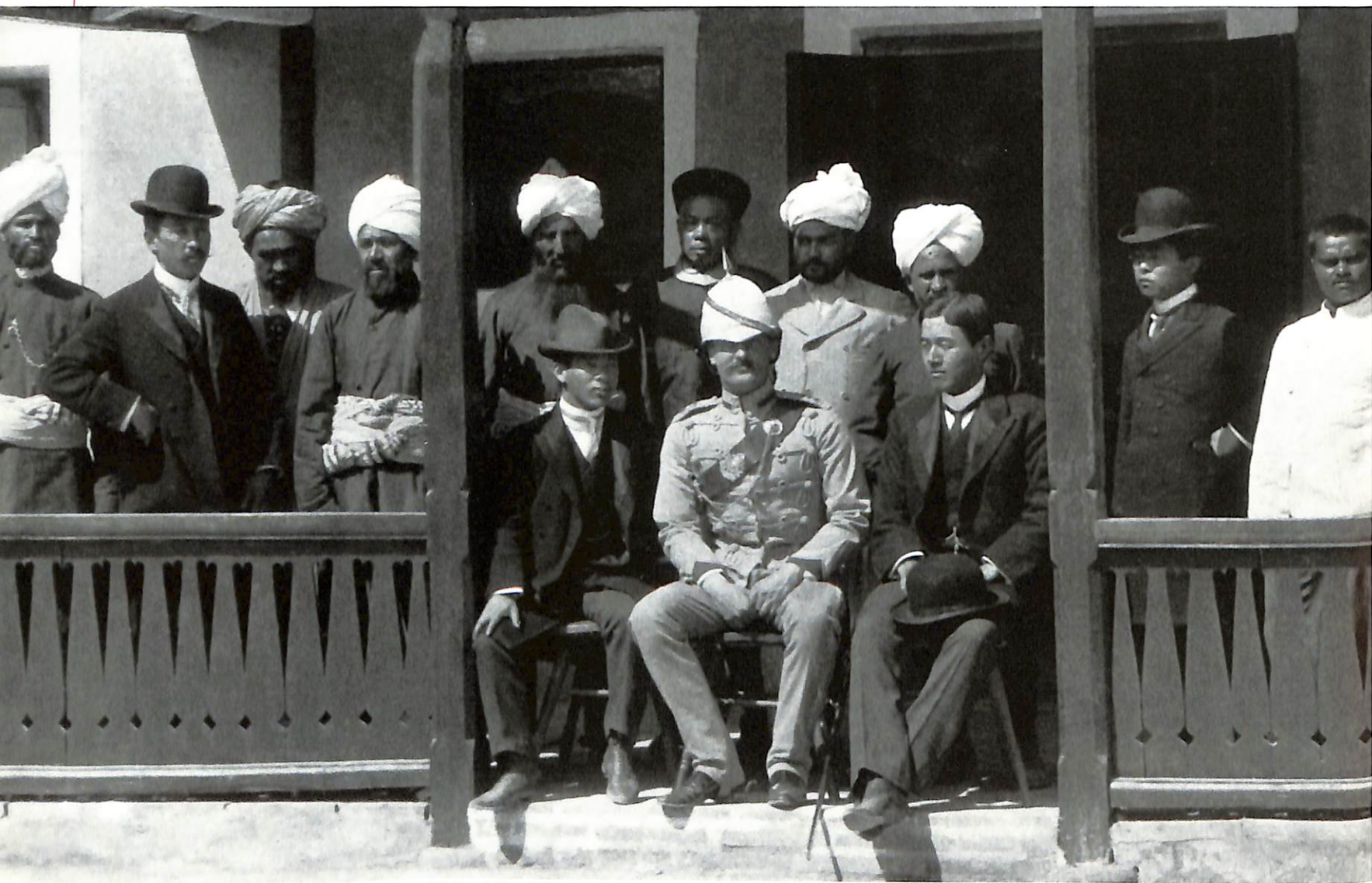
日録20世紀

10|20
平成10年10月20日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第39号 通巻82号
平成10年7月31日第三種郵便物認可
¥560
講談社

八甲田山「死の彷徨」!

大谷光瑞探検隊、中央アジアで仏跡踏査!
病床6年、正岡子規「仰臥漫録」の日々
ロシアの進出に国運を賭けて「日英同盟」締結!

“仏教東漸”の路を求めて私財を投入して敢行した3次にわたる仏跡踏査

大谷光瑞、中央アジアを探検!

▲カシュガルで英国領事館のマイルス中佐(中央)と。中佐から右へ大谷光瑞、堀賢雄。左へ渡辺哲信、3人おいて井上弘円。 徳正寺旧蔵／本多隆成提供

二〇世紀初頭、イギリス、フランスなどの列強は、相次ぎ中央アジアへの調査・探検に乗り出した。その成果に刺激されたのが、ロンドン留学中の大谷光瑞であった。彼は、大谷家の私財を投入して、三次にわたる探検隊を組織し、仏教東漸の経路を明らかにするべく仏跡踏査を敢行したのである。

インドでの調査を終え父の死でやむなく帰国

「ヨーロッパの列強は国の政策として探検を行いましたが、光瑞(こうずい)は私財をついやしてあれだけの決断をしたのです。イギリスのスタインらに先を越された光瑞の胸のうちには、仏教徒として、日本人として、自分がやらなければ、という相当に強烈な思いがあったに違いありません」

こう語るのは、大谷探検隊の一員だった本多恵隆(えりゅう)の孫にあたる、静岡大学人文学部教授の本多隆成(たかしげ)氏である。

明治三五年八月一六日、浄土真宗本願寺派の法嗣(ほうし)・大谷光瑞(二五)は、二年半にわたるロンドン遊学を終え、遊学先から仏教の源泉を求めて中央アジア探検に旅だった。ロンドンを出発した光瑞は、随員である本多恵隆(二六)、井上弘円(こうえん)(三〇)、渡辺哲信(てっしん)(二八)、堀賢雄(けんゆう)(二二)の四人とロシアの首都・ペテルブルグで落ち合い、周到な準備を整える。

ペテルブルグを出発したのは八月二四日。モスクワを経てコーカサスに南下、カスピ海を渡り、中央アジアの地、クラスノボーツク(現・トルクメニスタン)に上陸したのが九月一日。ここからトル

●右上は、大谷探検隊の将来品、「舎利容器」。踊り手や楽人を描いた精巧な細工がほどこされている。左は「唐宋間壁画断片」。右下の2点は、「唐塑像頭部」。 『新西域記』

中央アジア探検・調査旅行の足跡

第一次探検は大谷光瑞(こうずい)と四人の青年僧、第二次は橘瑞超(ずいちょう)、野村栄三郎、第三次は橘瑞超、吉川小一郎(よしかわこいちろう)によって行われ、踏査ルートは中央アジアからインドにおよぶ。第一次で一行は二隊に分かれ、光瑞以下三人がインドに向かっているが、足跡図上のルートは省略した。

第1次探検隊の足跡

▲タシュクルガンで2隊に分かれ、光瑞一行はスリーナガルへ。

第2次探検隊の足跡

▲橘と野村は、コルラで二手に分かれ、ヤルカンドで合流している。

第3次探検隊の足跡

▼橘はウルムチから楼蘭へ、吉川は安西からトルファン、クチャへ。

▼現在の新疆・ウイグル自治区を中心に踏査。

◎表紙　明治35年1月20日、八甲田連峰・黒倉山の難路を登攀する第31連隊。写真上方右から二人目が福島大尉。 東奥日報社／陸上自衛隊弘前駐屯地広報室提供

"仏教東漸"の路を求めて
私財を投入して敢行した3次にわたる仏跡踏査

大谷光瑞、中央アジアを探検!

キスタン鉄道で、当時の終点、アンディジャンに到着したのは、九月四日のことであった。

探検隊一行は、ここで六両の馬車を雇ってキャラバンを編成、九月八日午前一時、いよいよ東トルキスタンのカシュガル(現・新疆・ウイグル自治区)へ向け第一歩を踏み出した。

最初の難関、パミール高原北縁のテレック峠(三八〇〇メートル)では、吹雪と高山病に悩まされたが無事踏破、その間、井上が各地の風景や風俗を写真におさめ、一行は九月二一日にようやくカシュガルに到着する。当初、光瑞はみずからも東トルキスタンを探検するはずだったが予定を変更し、光瑞と本多、井上の三人は、インドに向かい、渡辺と堀の二人は途中のタシュクルガンまで三人を見送り、再び東トルキスタンのタリム盆地に引き返し、各地の調査を続けることになった。

九月二七日、光瑞ら一行はすさまじい砂塵が舞い上がる中、インドに向けカシュガルを出発。ヤルカンドでは、光瑞らを医者と間違えた病人が宿舎の前に続々と集まり、やむなく薬籠を開いて投薬している。タシュクルガンにたどり着いたのは一〇月一二日のことであった。ここで一行は二手に分かれたが、光瑞は一個ずつしか残っていなかった寒暖計と気圧計を渡辺と堀に手渡している。

その後、インドでの調査を終え、明治三六年一月一八日にカルカッタに着いた光瑞は、父・光尊の死という悲報に出合う。光瑞は、ビルマや中国・雲南の調査を断念、急遽帰国することになった。

一方、光瑞らと別れタリム盆地に引き返した渡辺と堀は、その後、キジル石窟、クムトゥラ石窟などの調査発掘を続け、明治三六年八月一一日、帰国のためクチャを発ち、東方へ向かいながら各地の遺跡を踏査し、明治三七年二月二八日、中国の西安でその役目を終えたのである。

本願寺宗門内で疑獄事件が発生

二〇世紀初頭には、中央アジア探検の成果が次々に報じられた。一八九〇年三月、タリム盆地でのイギリス人殺害事件を調査するため、クチャに赴いたバウア大尉が、住民から古文書を購入して以来、イギリスやロシアなど列強各国が競って中央アジアでの発掘を開始。一九〇二年、ハンブルクの第一三回国際東洋学会では、「中央アジアおよび極東の歴史学的・考古学的・土俗学的研究の国際学会」が成立するが、学会は中央アジアをめぐる英露の対立などで有名無実化し、各国は独自の調査探検を行うようになった。

当時イギリス遊学中の大谷光瑞が、この機会を見逃すはずはなかった。仏教界の名門に生まれ、皇太子嘉仁(後の大正天皇)の后・節子の姉、九条籌子を妻とする光瑞が、仏教復興の理想に燃え、仏教遺跡を調査する探検隊をみずから組織したのである。

探検なかばで父親の悲報を聞き、やむなく帰国した光瑞であったが、その後も中央アジアに対する情熱は冷めなかった。帰国した光瑞は、西本願寺第二二世門主として多忙な日々が始まったが、明治四一年、光瑞は当時一八歳だった橘瑞超に第二次探検を命じ野村栄三郎が同行する。橘は単独で中央アジア東方の楼蘭遺跡を調査し、「李白文書」を発見した。

その後第三次探検は、明治四三年、橘瑞超、吉川小一郎によって行われる。先行した橘が消息不明となり案じた光瑞が吉川に、第一級の価値ある文書として知られる「敦煌文書」を入手する密命を下す一方、橘の捜索に向かわせたのである。

それにしても資金繰りは苦しかった。その頃、本願寺宗門内では負債問題に端を発する疑獄事件が発生し、光瑞の地位もあやうくなっていた。財政窮迫の原因が、探検や神戸の別邸・二楽荘の建築などに、湯水のように金をつぎこんだ光瑞にあったことは言うまでもない。

こうした中、橘と再会した吉川は明治四五年にトルファン、チムサ一帯の調査に専念、翌年二月からタリム盆地などを踏査してウルムチに帰還。大正三年一月には一四五頭のラクダに八六個の収集品を乗せ、張家口に向かい、七月に天津を経て帰国。三次にわたる探検を終了したのである。

「探検の成功は、大谷光瑞のオルガナイザーとしての手腕がいかんなく発揮された結果です。イギリスなどの探検隊と違い、仏跡調査が主体だったことに大きな特徴がありましたが、せっかく持ち帰った資料を、学術的観点から整理・保存する人間がいなかったのは残念なことでした」

こう語るのは、早稲田大学名誉教授の長沼和俊氏である。実際、将来品の大半は、光瑞の手から離れて散逸、日本の中央アジア研究に寄与することはなかった。

光瑞は大正三年五月、疑獄事件の責任をとり、門主を弟の尊由に譲った後は、中国をはじめ、ジャワ、スマトラなどを旅行し、海外各地に別荘を作り、ゴムやコーヒーの栽培事業を手がけたりした。

▶光瑞一行がインドへ向かう途次、ギルギットの町はずれにあったカルガの磨崖仏を、本多恵隆が撮影。 「新西域記」(2点とも)

◀フンザ・ロード通過時に、一行の荷物を運んだ現地の人夫たち。左から二人目が井上弘円。

▲18歳で探検に参加した橘瑞超。

▲橘瑞超を捜索した吉川小一郎。 龍谷大学大宮図書館提供

▲大正2年、中央アジアの砂漠地帯を、キャラバンを組んで進む第3次大谷探検隊。 「新西域記」

大谷コレクションの行方

大谷探検隊は、本願寺の財力を背景に、光瑞一人の意志により派遣されたため、光瑞失脚後、将来品の整理や調査が不可能になった。

将来品の多くは、いったん神戸の別邸・二楽荘に運ばれたが、本願寺を離れた光瑞が、旅順や上海を訪れるたびにその文物も海を渡り、四散した。現在、大谷探検隊の将来品は、個人の手に渡ったものは別にして、中国の旅順博物館、韓国の国立中央博物館、東京の国立博物館、そして京都の龍谷大学の4ヵ所が所蔵している。

分蔵されている文物の概要は、『西域考古図譜』(大正4年)、『新西域記』(昭和12年)などに図示され敦煌研究に刺激を与えたが、発見地に関する記述の詳細を欠くため、その全貌はいまだに明らかにされていない。

龍谷大学所蔵のものは、光瑞の死後に遺品の整理が行われた際、西本願寺の土蔵の中で発見された。二つの木箱におさめられ、その内容は、古写経、古文書がおもで、染織品、植物標本、古銭なども含まれている。

◀「唐仏画断片」。二楽荘の将来品は、橘瑞超の手で整理された。 「新西域記」

210人中199人死亡と37人全員無事生還
指導者の認識と準備の差が運命を分けた
八甲田山 雪中行軍「死の彷徨」

来るべき日露戦争に備え、明治三五年一月、冬の八甲田山雪中行軍を敢行した第八師団の第五連隊と第三一連隊。だがその結末は、まさに「天国と地獄」だった。全員が無事生還した第三一連隊に対し、第五連隊員一九九人の命は、吹雪の中に消えたのである――。

装備も人数も対照的な二連隊の行軍がスタート

「天は我々を見捨てたらしいッ！　俺も死ぬから、全員枕を並べて死のうッ！」

明治三五年一月二五日午前三時すぎ、第八師団第五連隊雪中行軍指揮官の神成（かんなり）文吉大尉（三三）は、吹きすさぶ雪嵐の中、悲痛な叫び声を上げた。猛吹雪は視界を閉ざして道を隠し、同時に兵を疲弊（ひへい）させ、いくつもの命を奪っていた。

青森市の第五連隊と、弘前市の第三一連隊が雪中行軍を計画したのは、ロシアとの戦争に備えてのことだった。ロシア艦隊による海上封鎖が予想されるため、八甲田（はっこうだ）山（一五八五メートル）を越えて青森平野と八戸（はちのへ）地区を結ぶ連絡路を確保しておく必要があったのである。また、主戦場となるであろう満州（中国東北部）やシベリアの冬に慣れておくねらいもあった。

神成大尉指揮下の第五連隊は、青森市から田代平（たしろだいら）（現・青森市）までの約五〇キロを一泊二日で往復する計画をたてた。総勢二一〇人の大部隊のため装備は膨（ふく）れ上がり、精米約一石二斗六升、牛肉缶詰約一三〇キロなどの食料や、一二五キロの薪（たきぎ）、一〇本の小型シャベルなどの野営設備を一四台のソリに分載し、一台を四人で引くことにした。一方、福島泰蔵大尉（三五）率いる第三一連隊は、弘前市から十和田湖沿岸を進み、八甲田山を越えて青森市経由で弘前市に戻る全長二二三四キロ。これを一二日間で踏破する長期行軍だが、三七人の少数精鋭で、民家に泊まることで装備を限りなく軽くした点が第五連隊とは対照的であった。

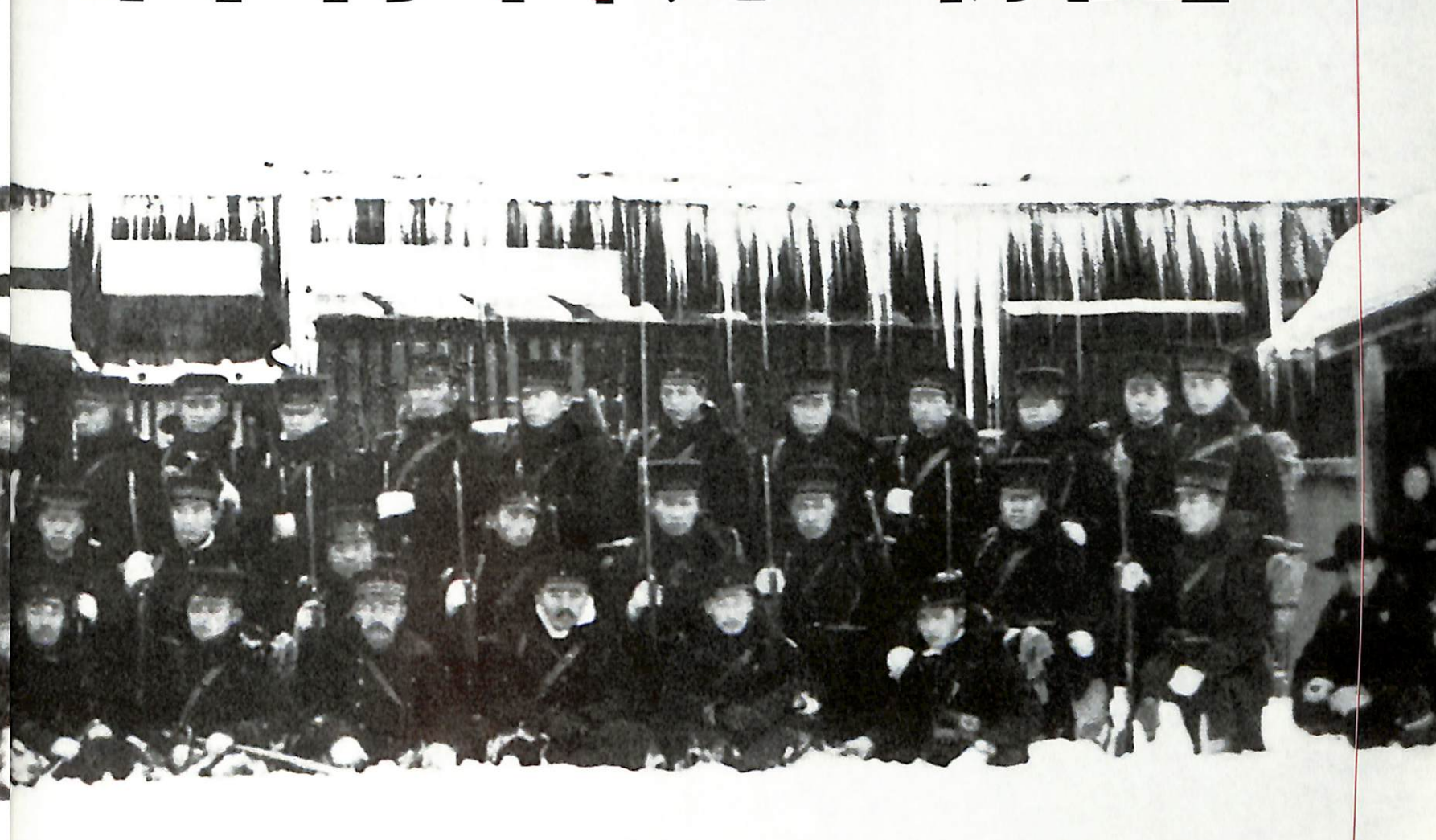
第三一連隊が一足早く出発してから三日後の一月二三日午前七時、第五連隊は青森市の屯営（とんえい）を出発した。前夜からの雪が降り続き、気温は零下六度だったが、冬の青森としては平穏な天気と言えた。約四〇分後、部隊はまず幸畑村（こうばた）（現・青森市）に到着。この村で、連隊の運命を左右する出来事が起こる。「案内人をつけないと、ここから先は危険だ」と進言する村民を、兵士はこう一喝（いっかつ）したのだ。

「軍隊の行軍に案内人などいらんっ！　案内の駄賃（だちん）がほしくて言うとるのか！」

しかし、冬の八甲田は地元の猟師すらおそれる「魔の山」。激しい吹雪のため、よほど土地勘がないと方角を見定めることもできない。事実、第三一連隊では、行く先々の集落に到着するたびに、地元の案内人を雇い入れていたのだ。だが、第五連隊は案内人のないまま、雪深い八甲田に足を踏み入れていった……。

冷気、疲労、睡魔に襲われ次々と倒れゆく兵士たち

同日午後、天候が急変する。気温は零下一七度に達し、兵士の携帯する握り飯はカチカチに凍った。積雪は胸より深く、歩くと言うより「雪の中を泳ぐ」状態。ソリは立ち往生し、兵士は荷物を背負って進んだ。だが猛吹雪は次第に視界を奪い、日暮れ頃にはついに方角も現在位置もわからなくなり、神成大尉は露営を命じる。しかし翌二四日になっても、いっこうに吹雪は止む気配を見せず、気温も零下二〇度まで下がった。実は、数十年に一度という大寒波が、日本列島をおおいつつあったのだ。

荒れ狂う吹雪と積雪のため、部隊は一

▲出発当日の1月20日、堀越村字門外の菊地健雄邸で初めての休息をとる第31連隊。この地方屈指の名門・菊地家の庭前で、高畑少尉が記念写真を撮った。　岩手日報社

毎日新聞社

▲第5連隊の2日目の野営地・鳴沢。この場所から前進できなくなり、捜索の人影が群れているあたりで、興津大尉とその足を抱いた軽石2等兵の遺体が発見された。

▶生存者のほとんどが凍傷で手足を失った。手当てを受ける山本一等兵。

毎日新聞社

▲凍りついた遺体は、田茂木野に設けられた収容所で鉄のベッドに横たえられ、下から火で解凍された。最後の遺体が発見されたのは5月28日。 毎日新聞社

時間に五〇〇メートルしか進めず、零下二五度の冷気は磁石すら凍りつかせて方角を見失わせた。兵士は凍傷や空腹、睡眠不足で疲労困憊し、力つきたものから路傍にバタバタと倒れていったのである。神成大尉も進路をさがそうと必死にさまよったがはたせず、冒頭の叫び声を上げたのだった。二一〇人いた兵士も、二四日夜には一七〇人、二五日夜に約四〇人と、みるみるうちに減少していった。中には「泳いで青森に帰る！」と叫んで川に飛びこみ急流に没するものや、枯れ木を見て「救援隊が来た！」と叫ぶものもあったという。

二六日になると、本隊に残っていたのは十数人にすぎなかった。ようやく第五連隊本部も捜索隊を派遣したが、吹雪にさえぎられて進むことができず、遭難者を発見したのは翌二七日になってからだった。発見された後藤房之助伍長（二二）は、直立姿勢のまま雪に埋もれ、手足はコチコチに凍結していた。懸命のマッサージで後藤伍長は蘇生したが、付近からは既に凍りついた遺体がいくつか発見された。その中には、指揮官・神成大尉の遺体も含まれていたのである。

一方、第三一連隊も吹雪と苦闘していた。「髭に氷条を懸け、肌に粟を生じ、心おののき、身ふるい、口閉じ、眼くらむ」と、福島大尉は後に述懐している。だが、何度か進路を失いそうになりながらも案内人の導きにより行軍を続け、二九日に青森市内にほど近い田茂木野に到着した。そこで、第五連隊の悲劇を知ることとなったのである。第五連隊は二一〇人中一九九人が死亡。これに対し第三一連隊は、全員が軽度の凍傷にかかったものの、一人の犠牲者も出さなかった。

「五連隊と三一連隊の運命を分けたのは、雪山に対する認識と準備の差ですね」

と語るのは、『事件で見る明治一〇〇話』で八甲田山遭難事件について書いている作家の中嶋繁雄氏だ。

「福島大尉はそれまでに何回も雪中行軍の訓練を重ね、冬の八甲田の怖さを熟知していました。だから地元住民にならって靴下に唐辛子をまぶし、油紙で足先を包んでワラ靴を履くなど装備も工夫していたのです。対して五連隊は、行軍の五日前に晴天下の行軍訓練を一度したのみで、雪山をすっかり甘く見ていました」

その後、福島大尉は雪中行軍に関する論文を発表し、その成果は陸軍の教範に取り入れられる。だが、明治三八年一月、日露戦争に参加した福島大尉は、満州・黒溝台の戦線で榴散弾を受けて倒れた。八甲田山の生還から、ちょうど三年後のことであった。

◀福島大尉とキエ夫人の結婚記念写真。挙式は明治三五年一〇月。

女たちの肖像

みずからの出産も教材に！東京女子医科大を創設する吉岡弥生の〝合理的〟な教育

稲葉真弓

わが国唯一の女医養成機関である東京女医学校（現・東京女子医科大学）の創設者・吉岡弥生は、その生涯を徹底して女子医学教育にささげたが、合理的、近代的教育をめざした彼女をめぐる有名なエピソードのひとつに、この年の長男出産がある。三一歳での初産。彼女はみずから実験台となり、二〇時間にわたって出産シーンを学生に見せたのである。彼女は後に日本女医会会長としても活躍したが、女医会が設立されたのも、この年のこと。翌明治三六年一月四日の新年会には幹事として名をつらね、以後、日本全国の女医のまとめ役、指導者として君臨した。

吉岡弥生は、明治四年、静岡県の医者、鷲山養斎の次女として生まれた。二人の兄も東京の済生学舎で医学を学ぶ家庭環境にあって、自分も医者になろうと決意したのが一七歳の頃。縁談をすべて断り、深夜まで物理の本に読みふける娘に父親が根負けして、上京を許したのが明治二二年、一八歳の四月のことだった。

約三〇〇人中の一〇人。それが済生学舎の女子学生の数だった。女性同士励まし合いながら医学を学んだ弥生は、明治二五年秋、日本で二七番目の女医となり、一時は郷里で父の経営する鷲山医院の分院をまかされた。しかし、田舎での開業医生活に飽きたらず、本場・ドイツをめざして再び上京。夜間診療の医院を開くかたわら、昼は東京至誠学院でドイツ語を学び、二八年、学院の院長・吉岡荒太と結婚した。

留学をあきらめ女医養成に乗り出すのは、三三年、済生学舎が女子学生追放を決めたのがきっかけだった。母校の女子医学生の前途を思い、夫の協力のもと東京女医学校の看板を掲げたが、あるのは顕微鏡一台、試験管十数本だけ。野良猫の死骸を、解剖用の教材にする貧しさだった。

この学校に志願者が押し寄せるのは、日露戦争後である。戦争未亡人まで女医をめざし、教室を建て増しして四五年には東京女子医学専門学校として認可され、大正七年には一三〇人の新入生を迎え入れた。

昭和二七年、医科大学に昇格。この時、男女共学にする話がもちあがったが、「女子医大は女のための学校です」と断固拒否、〝女〟にこだわった彼女らしい逸話である。また、〝死んだら遺骸はミイラにしてほしい〟と頼んだという。昭和三四年、八八歳で死去。日本女医会会長現役のままだった。

東京女子医科大学提供

▲愛国婦人会評議員、大日本婦人会顧問など、要職を歴任した。

勝者・敗者

〝東洋の快足〟藤井実が東大運動会で樹立した一〇〇メートル世界新の真相

阿部珠樹

この年、一一月一四日、東京帝国大学で行われた陸上運動会で、二二歳の東大生、藤井実は一〇〇メートル一〇秒二四の世界新記録を樹立した。この記録は、まだ国際陸上競技連盟のなかった時代、最も権威を持っていたAAU（アメリカ競技連合）の年鑑にも紹介され、世界記録として事実上公認された。

東洋に素晴らしい快足の持ち主がいるという話は、めぐりめぐって英国王室にも伝えられ、王室が所有する馬の一頭には藤井の名を取って「ミノル」の名が与えられた。スポーツ黎明期に、これだけの快挙をなしとげた日本人がいるとすれば、誇らしい限りだが、実はこの記録、今日ではかなり疑問視されている。

一〇〇メートルの世界記録は藤井の記録の二年前、一九〇〇年の段階では一〇秒八だった。それが一〇秒六になったのが一九一二年、一〇秒三台に到達したのは一九三〇年になってからのことである。日本の公認記録を見ても、藤井から九年後の明治四四年のものでなんと一二秒〇。これを見ると、藤井の記録がいかに突出していて不自然なものであったかがわかる。

そうした不自然な記録が生まれた背景には、計測方法の問題があった。

この年、東大の運動会では、それまでの方式に代わり、最新式の電気計測器が導入されていた。従来のものに比べて断然正確という触れこみだったのだが、どうやら、飛び抜けた記録誕生の背景には、この新計測法の誤りがあったというのが、今日では一致した見方になっている。こうした混乱は何も藤井の場合に限らない。一〇年後、ストックホルム五輪のマラソン日本代表選考会でも当時の世界記録が樹立されたが、これも今日では距離計測に誤りがあったためと見られている。

こうした誤りは、むろん選手の不名誉ではない。

それに藤井は棒高跳びでも三メートル九〇の世界記録を樹立しており（こちらは正確だったようだ）、黎明期の日本陸上界では突出した能力の持ち主だったのである。

▶藤井実自身は、外交官になった後も自分の記録に確信を持っていたという。

近藤千浪提供

京都府立総合資料館提供

▲「松竹」旗揚げ(1月1日)前年、京都・新京極に明治座が完成し、元旦に舞台開き。座主は、双子の白井松次郎・大谷竹次郎(24)。「松竹」の始まりだった。

▶森鷗外が再婚(1月4日)第12師団軍医部長として小倉に赴任中、美貌の新妻・志げ(写真)を得た。鷗外は18歳上の39歳。文壇活動が原因で左遷され、雌伏中だった。

◀「万朝報」3000号記念(1月27日)経営者・黒岩涙香による"懲悪的"な紙面作りで人気。内村鑑三・幸徳秋水・堺利彦を抱え、最も進歩的な新聞だった。

ROGER-VIOLLET/ユニフォト・プレス

◀山手線、池袋—田端間着工(1月)明治18年に開業した、品川—新宿間の品川線と連絡するために計画。翌年4月開通した。山手線が環状運転を実現したのは、大正14年だった。

◀光緒帝、北京に帰る(1月7日)「義和団事件」で、列強の侵攻を逃れ、西太后とともに西安に脱出。前年の講和・辛丑和約により、2年ぶりに紫禁城に戻った。

▲シベリア鉄道、ほぼ全通(1月30日)ウラジオストク—ハバロフスク間が竣工。ロシア横断線が開通、5月に直通運転が始まった。写真は、シベリアのオビ駅。

明治35年 1月

1(水)●白井松次郎・大谷竹次郎兄弟、京都・新京極に明治座開場(この月、松竹合名会社設立)。
2(木)●東京・上野動物園に独から購入のライオン、ダチョウ(初来園)など一三種、二三頭が到着。
3(金)●訪欧中の伊藤博文、英外相と日英同盟で会談。
4(土)●大阪有数の規模誇る千日前の南大劇場が全焼。
5(日)●「大阪朝日新聞」、ルビつき活字の使用を開始。
6(月)●前年の東京手形交換高は不況を反映し、前々年より二割二分の大幅減少、と新聞に。
7(火)●「義和団事件」(「北清事変」)で西安に逃れていた光緒帝と西太后が北京に帰還。
8(水)●伊、離婚承認の法案に教権擁護論者が猛反対。
9(木)●大阪商業銀行、多額の欠損金で解散決定。
10(金)●中国・天津の日本領事館が総領事館に昇格。
11(土)●東京商船学校、越中島に新築移転。
12(日)●北沢楽天、「時事新報」に「時事漫画」の連載を開始。第一回は「田吾作と杢兵衛の東京見物」。
13(月)●不況のため横浜港の外国船碇泊ゼロと新聞に。
14(火)●栃木・足利で鉱毒地救済演説会。聴衆千余人。
15(水)●文部省、実業補習学校規程を改正公布。実業教科を主に、普通教育の補習を従とする。
16(木)●トルコ、独にバグダッド鉄道建設権を与える。
17(金)●新潟の石油一三社、七組合が合同し新社設立。
18(土)●警視庁、皇室・宮内省「御用」文字の商品、広告などへの使用を禁止、取締りを通達。
19(日)●清国留学生対象の東京同文書院が開校。
20(月)●東京博物館に高麗陶器三〇〇点展示と新聞に。
21(火)●浦賀船渠、米軍砲艦五隻の建造を受注。
22(水)●東京・京都両帝大卒業者動向が新聞に。三七九人中、最多は大学院進学七五人(文部省調査)。
23(木)●耐寒行軍中に青森歩兵第五連隊二一〇人が八甲田山麓で遭難(5月までに一九九遺体収容)。
24(金)●竹内代議士ら、衆院に「北清事変」の軍による馬蹄銀横領の質問書提出(馬蹄銀分捕り事件)。
25(土)●旭川で国内最低気温の氷点下四一度を記録。
26(日)●山形に大雪、米沢—福島間の汽車が不通に。
27(月)●東京の師範学校教員試験で問題漏洩が発覚。
28(火)●青森県、前年の児童就学率男八八、女五〇%(全国男女平均八九%)で、就学督励を訓示。
29(水)●米国の鉄鋼王・カーネギー、科学研究所設立。
30(木)●日英同盟協約調印。露の中国・朝鮮進出に対抗した攻守同盟(明治38年第二次日英同盟)。
31(金)●福島県郡山の田中工場で野口遵設計のカーバイド生産を開始。国内初の電化工業。

ニュース・ファイル

1902

フォト+日録で再現する365日

八甲田山「死の雪中行軍」で、この年は明けた。ロシアの「満州」(中国東北部)支配強化に、日本政府は日英同盟締結でこたえた。五月には、戦艦「三笠」が英国から回航され、海軍拡張のため増税を強行する桂内閣は、一二月、伊藤・大隈の反対の中、議会を解散した。

◀野口英世、ペンシルベニア大助手に(10月)2年前に渡米、蛇毒の研究に励んでいた。26歳。ほどなく、ロックフェラー研究所員となり、梅毒病原体スピロヘータの純粋培養に成功、ノーベル賞候補となった。

野口英世記念会提供

西日本新聞社

◀**博多に「九州の12階」(2月)**高さ30メートル、木造8階建ての「高砂館」が中洲に出現、人気を集めた。建主は八尋利兵衛らで、入場料と看板の広告代で、施工費は十分にまかなえた。

▲**初の普選法案(2月12日)**活発になってきた普選運動を受け、自由民権運動の議員・河野広中(52、写真)や花井卓蔵(33)らが衆院に提出。否決されたが、以後、毎議会に提出された。

『東京大学―その百年』

▲**木村栄、Z項を発見(2月4日)**岩手・水沢緯度観測所で、極運動以外の経度に無関係な年周変化を記録、ドイツの天文学会誌に発表した。31歳。写真右は、田中館愛橘。

▶**高峰譲吉、帰国(2月4日)**アドレナリンの抽出に成功し、ニューヨークの研究所から、キャロライン夫人らと帰国。高峰(47、右から二人目)はタカジアスターゼの研究で、国際的名声を得ていた。

『風俗画報』

▶**芝浦製作所がフル操業(2月)**不況だったが、軍需を中心に、発電機など重電機の需要が伸び、業績は上がった。写真は第2工場。明治37年には、三井傘下から独立した。

「イリュストラシオン」

▶**第1回青年トルコ会議開催(2月)**アブデュル・ハミト2世の圧政に反対するアフメト・リザ(中央)らが、亡命先のパリで蜂起をめざして結集。6年後、目的を達成した。

明治35年2月

1(土)●清国、纏足禁止令発布。近代化の一環。

2(日)●足尾銅山鉱毒被害の婦人三十余人、東京で窮状を訴える(20日、貴族院前で座りこみ)。

3(月)●生糸輸出好調で過去一〇年間で倍増と新聞に。

4(火)●天文学者・木村栄、地球緯度変化に関し、一年周期で現れるZ項成分の存在を発見。

5(水)●広島区裁、第一一連隊長・粟屋幹宅などで馬蹄銀押収(13日、憲兵隊、粟屋連隊長を勾引)。

6(木)●文部省、中学校教授要目編纂。各教科内容を学年別に指定し、教科書中心の授業に転換。

7(金)●大蔵省、証券条例改正法を公布。割引発行制度を創始し、市場での流通をはかる。

8(土)●東京の玉川砂利電気鉄道(現・東急新玉川線)、敷設免許を取得(明治40年開通)。

9(日)●売上金五〇〇〇円を着服、吉原で使いはたした二四歳の自転車販売支店長が検挙される。

10(月)●東京・日比谷公園に桜など植樹開始と新聞に。

11(火)●石川島造船所構内の艀が転覆、職工七人溺死。

12(水)●河野広中、花井卓蔵ら、初めて普通選挙法案を衆議院に提出(25日、否決)。

13(木)●不潔な櫛による女性の禿頭病流行、と新聞に。

14(金)●慶応義塾生が日英同盟を祝い英大使館に炬火行列。各地でもさかんに祝賀行事が続く。

15(土)●ベルリンで高架鉄道・地下鉄が開通。

16(日)●大阪で人頭を黒焼きにしたとする薬品の売買が発覚。五〇歳の男を墳墓発掘容疑で検挙。

17(月)●バルセロナで八万人がゼネスト(20日、非常事態宣言。鎮圧に軍隊出動し死者四〇人)。

18(火)●横浜市に中国人の帰化出願が続出、と新聞に。

19(水)●仏、一歳児の種痘を義務化。

20(木)●東京電気鉄道、市内外濠線敷設の認可受ける。

21(金)●房総半島沖に座礁した英貨物船を、横浜の鋼鉄商が付属品含め三万六千余円で落札。

22(土)●上海の資本家団体、上海商業会議所を設立。

23(日)●東京・小石川の伝通院で八甲田山遭難軍人の法会式。夜間、境内の幻灯映写に一万人参集。

24(月)●三五年度予算、三億七〇四三万円(うち軍事費二八%)を公布。

25(火)●伊藤博文、欧米から帰国(日露協定は失敗)。
●東京瓦斯、炊飯用ガスかまどの専売特許取得。

26(水)●文部省、紙質・印刷粗悪の教科書取締りを通達。

27(木)●長崎・松島炭鉱で労働者一〇〇人が給料への不満などから納屋頭宅を襲撃。

28(金)●米国アジア艦隊司令官、ルイズ・ケンプ参内。

毎日新聞社

▲**若き魯迅、日本に留学(3月)**嘉納治五郎が東京に設立した、清国学生のための学校・弘文学院に官費で入学。20歳。日本語などを学び、2年後、仙台医学専門学校に進んだ。

◀**戦艦「三笠」竣工(3月1日)**英のビッカース造船所で建造していた1万5140トン、30.5センチ主砲4門を備える世界最新鋭艦。写真は、日本回航を前に、艦上での引き渡し記念。

◀**実践女学校第1回卒業式(3月)**元天皇女官・下田歌子(47、中央)に良妻賢母主義の薫陶を受けた、上流子女が初めての巣立ち。現・実践女子大の先輩たち。

▼**水産講習所、新築(3月)**日本の漁業が、沿岸から沖合・遠洋へ転換、新技術と商品開発が急がれた。現・東京水産大学が越中島に拡充・移転、その課題を担った。

『東京水産大学百年史』

▶**日本生命本店ビル竣工(3月30日)**契約高日本一になり、心斎橋筋に、赤煉瓦と大阪初のエレベーターが呼び物の新社屋を建築。設計・関野貞。建坪398坪、3階建て。大阪の新名所になった。

日本生命提供

石井行昌/京都府立総合資料館提供

▲**天満宮1000年祭(3月)**祭神・菅原道真の1000回目の命日を記念し、福岡の太宰府天満宮はじめ、全国の天神社が盛大に祝祭。写真は京都・北野社。31日に大祭を執行、街はにぎわった。

明治35年3月

1(土)●戦艦「三笠」、英・ビッカース社で完成。
●一高記念祭で「嗚呼玉杯に花うけて」発表。

2(日)●仏、三党派合同し社会党(PSF)結成。

3(月)●衆議院、骨牌税法案を可決(4月5日公布)。

4(火)●足尾鉱毒被害民一三四人が農商務省に陳情。

5(水)●清国、駐清各国大使に天津還付を正式要求。

6(木)●三越呉服店、賞金一〇〇円の呉服地図案募集。

7(金)●東京・深川の温泉湧出騒ぎは、地質協会が付近の銭湯の熱湯がもれたものと断定し、沈静。

8(土)●北海道土功組合法公布。組合結成し未成・未墾地の水田化を促進(4月1日施行)。

9(日)●全国のマッチ製造業一八四社が合同、日本燐寸トラスト設立契約を締結。

10(月)●政府、人員削減目標は各省二割と決める。

11(火)●警視庁、勧工場取締規則を改正発布。消火器の設置など火災予防に主眼。

12(水)●新派の伊井蓉峰ら真砂座で「天の網島」を初演。

13(木)●露領ポーランドで「ツァーリの歌」斉唱を生徒が拒否したため、高等中学など閉鎖処分。

14(金)●門司港で香港向け英貨客船から密出国の日本人女性一六人発見され、手配師とともに検挙。

15(土)●警視庁、二六新報社が東京・向島で四月開催予定の労働者大懇親会を治安妨害理由に禁止。

16(日)●仏・露が、日英同盟の原則に同意の共同宣言。

17(月)●鉱毒調査委員会官制公布。鉱毒地の調査・報告など(後に谷中村遊水池案を提案)。

18(火)●伊・カルーゾ、一流歌手初のレコーディング。

19(水)●本州最東端の岩手・魹ケ崎に灯台が完成。

20(木)●露で農民叛乱始まる(4月15日、内相を暗殺)。

21(金)●東京帝大医科大学に歯科講座設置。

22(土)●金沢三五連隊で腸チフス患者続出、と新聞に。

23(日)●伊、未成年者の労働年齢制限を引き上げ。男子は九歳から一二歳以上に。

24(月)●英議会、バルフォア法(体育促進法)可決。

25(火)●文部省、国語調査委員会を設置(~大正2年)。

26(水)●森鷗外、第一師団(東京)軍医部長に就任。

27(木)●日本興業銀行設立(総裁・添田寿一)。
●陸軍大臣、児玉源太郎の後任に寺内正毅就任。

28(金)●豚肉嫌いの女性のため、東京で豚料理試食会。
●広島高師、神戸高商、盛岡高農を設立。

29(土)●東京市内、六ヵ所の警察分署を廃止。

30(日)●愛国婦人会、東京・九段で第一回総会を開催。
●福井市で大火、三三〇〇戸焼失、六人死亡。

31(月)●財政難の京都市、道路拡張事業を一時中断。

毎日新聞社

▲各地に幼稚園開園（4月）明治32年に、遊戯・唱歌・談話・手技の保育4項目が定められ、この頃から広く庶民に支持され、40年には全国386園が開園。写真は、堺市立第一幼稚園の入園記念。

「太陽」

▲宮崎滔天、浪曲に入門（4月）孫文を支援し「三十三年の夢」を連載中に突然、桃中軒雲右衛門に弟子入り。後列中央・雲右衛門、前列右端・滔天（31）。

▶第1回日本連合医学会開く（4月2日）東京の東京音楽学校に二千余人が参集。講演会も行われ、北里柴三郎、高峰譲吉らが最新の研究成果を発表した。

▶大原孫三郎、女子小開校（4月）倉敷紡績の寄宿舎内に設け（後の倉紡学校）、従業員教育を実施。9年後には、男子用の工手学校（写真手前）も開校した。

ナショナル・ジオグラフィック・マガジン／アメリカンフォト・ライブラリー

▲仏領マルティニーク島で大噴火（5月8日）カリブ海のリゾート地を悲劇が襲った。港町・セントピエールは、プレー火山からの溶岩におおわれ壊滅、死者は4万人に達した。

「風俗画報」　「風俗画報」

▶日蓮開宗650年祭（4月28日）上野公園のほか、各地の日蓮宗寺院で記念祭を盛大に挙行。写真は、大会委員。右は指導者の田中智学（41）。祖道復古・宗門改革をめざした。

明治35年4月

1（火）●官設鉄道運賃値上げ。新橋から品川六銭、横浜三〇銭、名古屋二円九三銭、大阪三円七五銭。

2（水）●第一回日本連合医学会。北里柴三郎「結核病」、高峰譲吉「アドレナリン」を講演。
●内務省、僧侶の政治活動厳禁を各宗派に通達。
●米国初の映画館がロサンゼルス市にオープン。

3（木）●逓信省、三等郵便局一〇〇ヵ所増設を開始。

4（金）●甲武鉄道（現・中央線）、小金井観桜列車を運行。

5（土）●衆院議員選挙法改正。市部選出議員を増加。

6（日）●日本体育会設立総会を東京で開催。

7（月）●石油のテキサス会社（現・テキサコ）、創立。

8（火）●露・清国、満州条約調印。露は一八ヵ月以内の撤兵に合意（10月第一期のみ履行）。

9（水）●東京・京橋に住民らの寄付で警察派出所完成。

10（木）●英王立内科研究所、癌の治療研究計画に着手。

11（金）●警視庁、流行病予防のための清潔令を制定。不潔な便所には石灰を散布すること、など。

12（土）●紀州徳川家の蔵書をおもにおさめた南葵文庫、東京・麻布で開庫式（一般公開は明治41年）。

13（日）●京都・船岡精神病院で火災、患者一七人焼死。

14（月）●米国有数の百貨チェーン店、J・C・ペニーの前身「ゴールデン・ルール・ストア」が開店。

15（火）●奈良・興福寺、五重塔の落慶法要を挙行。

16（水）●横浜・野毛貯蓄銀行で職員四人が最下級給料一〇円に増俸要求しスト（27日、全員解職）。

17（木）●陸軍参謀本部次長に田村怡与造、軍務局長に宇佐川一正が就任（対露作戦の検討始まる）。

18（金）●東京電気鉄道など三社合同し、東京市街鉄道を設立（翌年9月15日、電車運転を開始）。

19（土）●星亨殺害控訴審、伊庭想太郎に無期判決。

20（日）●比の反米ゲリラ司令官・ザモラ、米軍に降伏。

21（月）●神戸でペスト発生、患者宅周辺の交通を遮断。

22（火）●東京・湯島神社で菅原道真没後一〇〇〇年祭。

23（水）●ロンドン・ニューヨーク銀相場が連鎖大暴落。

24（木）●宮崎沖で水雷艇演習中に一人が墜落、溺死。

25（金）●文部省、高校と大学予科入試に総合選抜制を採用（全国同日試験、成績順に希望校へ配分）。

26（土）●中国人留学生・章炳麟ら東京の「中国亡国記念会」が中止命令のため、孫文らと横浜で開催。

27（日）●札幌農学校に初めて清国学生入学、と新聞に。

28（月）●前年の北海道移住は五七八六戸、二万六二二〇人。出身地は新潟、石川、青森の順。

29（火）●米政府、中国人移民排斥法の全土適用を決定。

30（水）●北海道で漁船七十余隻遭難、二二二〇人が水死。

証言・あの日この日
中里介山（17）

5月4日（日）〈生徒には馬鹿にされる。頭痛はする。父には怒られる。銭は一文もなし。検定試験は近づく。吾ながら、気が屈せざるを得ない〉（中里介山『壬寅日誌』）

自由民権運動の余熱がまだ残っていた明治18年、神奈川県西多摩郡（現・東京都）に生まれた介山は、この頃、母校の西多摩尋常高等小学校に勤務、代用教員として毎日悶々の日々を送っていた。正教員の資格を取るために教員講習会にかよいながら熱心に勉強していたが、この頃、久保川きせ子という、クリスチャンで年上の女性教師に恋をする。元々社会的関心の強かった介山は、彼女の影響もあってキリスト教への関心を深め、青梅の福音協会にかよい、キリスト教的社会主義に接近していく。正教員資格を取得するが、翌年には教職を辞し、上京。やがて社会主義運動や文学に身を投じる。（山崎行太郎）

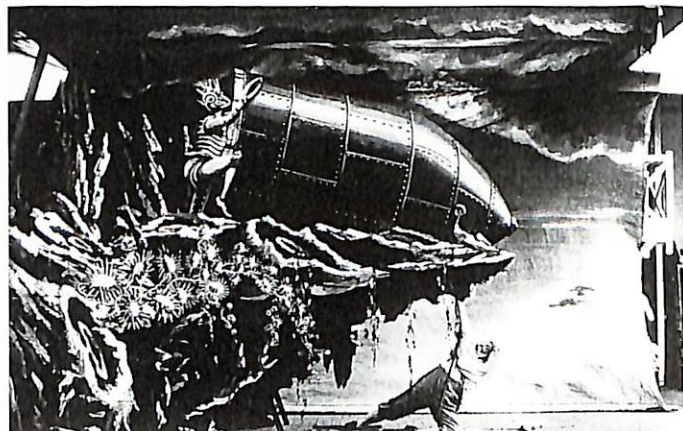
ユニフォト・プレス

▲ボーア戦争終わる（5月31日）ボーア人ゲリラが英軍に無条件降伏。金とダイヤモンドを求めて、南アに侵攻してきた英軍の圧倒的戦力の前に屈し、「ボーア共和国」は英植民地に併合された。

◀韓国に「1円」登場（5月20日）第一銀行釜山支店が、約束手形として発行。韓国内で日本通貨と交換させた。さらに仁川、漢城（現・ソウル）でも発行、明治38年の韓国中央銀行代行への布石とした。

「風俗画報」

▶伊豆大島・三原山に地学協会探検教室（5月）各地を踏査してきた協会が、地学普及を兼ねて初めて大島探検を企画。会員の鳥居龍蔵ら4人を案内人に、一般応募者50人と「探検」を実施した。

▼台湾、大討伐（5月21日）植民地支配に対する土着勢力の武装蜂起に、台湾総督府が本格的な鎮圧を強行。二千余人を殺害し、全域支配を確立した。写真は日本軍討伐隊。

▲初のＳＦ映画公開（5月）リュミエール兄弟開発のシネマトグラフを使い、仏の映画監督・メリエス（40）が「月世界旅行」を完成。トリックを駆使して空想的世界を作りあげ、特撮の先駆となった。写真は撮影のセット。

明治35年5月

1（木）●藤本ビルブローカー（日興証券の前身）、開業。

2（金）●米国がハワイ各島の水産物調査開始と新聞に。

3（土）●宮城・金華山の海軍望楼が業務開始。

4（日）●東京・九段にパノラマ館「国光館」開館。日清戦争の激戦地などを模し、軍事思想を奨励。

5（月）●正岡子規、随筆「病牀六尺」を新聞「日本」に連載開始（～9月17日）。

6（火）●前年韓国から帰国の笹森儀助、青森市長就任。

7（水）●神奈川屈指の寺院・西来寺で出火、東京湾砲兵連隊も応援消火するが本尊・宝物類を全焼。

8（木）●カリブ海の仏領マルティニーク島のプレー火山が爆発、住民ら四万人が死亡。

9（金）●文部省調べで全国の図書館数は四三と新聞に。

10（土）●水戸裁判所で出火、庁舎を全焼。

11（日）●軍艦「八重山」が根室沖で座礁大破。

12（月）●米国で炭鉱労働者一五万人がスト（10月13日大統領が調停、24日一〇パーセント賃上げなどで妥結）。

13（火）●馬蹄銀分捕り事件で軍法会議。全員無罪判決（14日、粟屋連隊長ら停職の行政処分）。

14（水）●山本権兵衛海相、伊東祐亨軍令部長ら、横須賀で英東洋艦隊司令長官と日英共同作戦検討。

15（木）●飯島かね子、家政学、速記術研究のため渡米。

16（金）●陸軍、気球・鉄道・電信など特科隊設置を決定。

17（土）●工場機械化でタバコの婦人内職減少と新聞に。

18（日）●英から回航の戦艦「三笠」、横須賀に到着。

19（月）●春の天候不順で各地養蚕四割減収、と新聞に。

20（火）●米軍、米西戦争以来駐留していたキューバから撤退、米国保護下にキューバ共和国成立。
●第一銀行、韓国・釜山支店で銀行券発行。

21（水）●横浜市、水道敷設公債九〇万円をロンドンで発行のため、英・サミュエル商会と契約調印。

22（木）●鉱毒調査会、足利で被害民の健康診断を実施。

23（金）●台湾・香港などアジア各地でコレラ蔓延のため、内務省は全国主要港に検疫強化を訓令。

24（土）●エビス麦酒などニセ物が東京に横行と新聞に。

25（日）●横浜で輪友同志会の自転車競走。二万人見物。

26（月）●第二師団（仙台）で火災、兵舎など八棟を焼失。

27（火）●景気不振で前年比一割の減収と日本郵船発表。

28（水）●仏、下院選挙で左派が躍進（6月2日、ルソー内閣総辞職、コンブの急進党内閣成立）。

29（木）●皇室誕生令を公布。皇子の命名法などを規定。

30（金）●大阪の紡績一四社、操短など不況対策を協議。

31（土）●南アのボーア人ゲリラ、英軍に降伏。プレトリアで講和条約に調印。ボーア戦争終結。

▼サラ・ベルナール、凱旋公演(6月16日)パリ、米国での成功を引っさげてロンドン公演。57歳の年齢を感じさせない「椿姫」の艶姿に、観客は息を呑んだ。

北川太一提供

▲東京新詩社、月例歌会(6月)明治32年来、与謝野鉄幹(29、前列右端)、上田敏(27、前列左端)らを中心に活動。この月の例会に高村光太郎(19、後列中央)が出席した。

徳川文武提供／松戸市戸定歴史館

◀徳川慶喜、公爵親授(6月3日)田中宮内大臣ら参列のもと、宮中で行われた。慶喜は64歳。大政奉還後、徳川家達が宗家を継ぎ、閑居。天皇に恭順の意を示し続けていた。

▲米陸軍士官学校、創立100周年(6月5日)ウエストポイントの記念式典に、ルーズベルト大統領が招かれ、卒業証書を授与した。

▼秩父宮誕生(6月25日)午前7時30分、皇太子妃が迪宮裕仁(昭和天皇)の弟宮、第2子を出産。7月3日、淳宮雍仁と命名された。写真は4歳の迪宮と3歳の淳宮(右)。

「近事画報」

▲特急「20世紀号」発車(6月15日)米国のセントラル鉄道に登場。展望車・ビュッフェ・図書室のある豪華列車で、ニューヨーク−シカゴ間を20時間で走った。

明治35年6月

1(日)●山口・赤間関市が下関市と改称。
2(月)●輸出不振、前年比二割五分の減少と大蔵省。
3(火)●取引所令改正公布。取引所の資本金最低額を三万円から一〇万円に引上げなど。
●徳川慶喜に公爵、西郷隆盛の次男、西郷寅太郎に侯爵位を授与。
4(水)●宴会に必要な芸人・音楽・大道具などを調達する余興請負社が東京に開業、と新聞に。
5(木)●東京・新橋駅の入場券三銭が五銭に値上げ。
6(金)●内田魯庵、『社会百面相』刊行。
●株式市場、取引所令改正に動揺し大暴落。
7(土)●北海道庁、奥尻島島民にトドの捕獲を許可。
8(日)●静岡の全国茶業大会に出席の外相・小村寿太郎、露への緑茶輸出が有望、と演説。
9(月)●袁世凱、直隷総督・北洋大臣に就任。
10(火)●米国人、A・キャラハンが、郵便物の宛名が外側から見える窓つき封筒を発明、特許取得。
11(水)●海軍常備艦隊参謀長に加藤友三郎大佐が就任。
12(木)●北里柴三郎ら、同仁会を創立。中国・韓国の医事・衛生の改善が目的。
13(金)●警視庁、男女混泳禁止など遊泳場規則を通達。
14(土)●北京列国公使会議、「義和団」賠償金分配議定書調印（日本への分配は四四七九万円）。
15(日)●東京に私立・大橋図書館(現・三康図書館)開館。
●動物虐待防止会の発起人会を、東京で開催。
●米国のセントラル鉄道、ニューヨーク−シカゴ間で豪華特急「二〇世紀号」の運行開始。
16(月)●田中正造、官吏侮辱事件で有罪判決受け入獄。
17(火)●海軍省と逓信省、無線電信の共同研究開始。
18(水)●伊東忠太、中国・大同の雲崗石窟と石仏「発見」。
19(木)●東京電気、電球のガラス球と口金の製造開始。
20(金)●農商務省、製鉄事業調査会を設置。
21(土)●陸軍省、北海道日高地方に軍馬放牧場を設置。
22(日)●東京・芝で琵琶湖の蛍数万匹による蛍狩り会。
23(月)●東京・品川の桜の名所、御殿山の桜が数百株伐採され、約五〇〇〇坪の宅地に、と新聞に。
24(火)●皇太子が葉山で新来の自転車に試乗と新聞に。
25(水)●淳宮雍仁親王（秩父宮）誕生。
26(木)●陸軍、愛知の試砲場で二七チセン加農砲試射実施。
27(金)●農商省、蚕業講習所に女子対象の製糸科新設。
28(土)●独・オーストリア・伊三国同盟が六年間延長。
29(日)●松本―諏訪間の生糸運送業者ら一〇〇〇人、賃上げを求めスト決行。
30(月)●内務省、足尾地区に武器・爆発物の携帯禁止令。

「現場」を歩く 神戸

三井物産も抜いた鈴木商店、"名番頭"金子直吉の成功と破綻

山本徹美

明治三五年一〇月一日、神戸市栄町四丁目四五番屋敷に本店をおく鈴木商店が、神戸区裁判所に合名会社の登記をした。

当時、わが国の総合商社業界では財閥系の三井物産、三菱商事が覇権を争っていた。そこに個人貿易商の鈴木商店が果敢に斬りこんでゆくのだが、その第一歩がこの組織変更であった。

鈴木商店は鈴木岩治郎が明治一〇年、神戸で創業。おもな業務は砂糖の輸入・販売だった。同一九年、高知から二一歳の青年貿易商・金子直吉が雇用され、樟脳の輸入を手がける。直吉は台湾産樟脳油の独占販売権を獲得、これを契機に会社は急成長する。同二七年岩治郎が死去し、よね未亡人が店主に就任すると、直吉は番頭として同店の運営を一任された。

合名会社鈴木商店はロンドン、ハンブルク、ニューヨークと世界各地に代理店を設置。直吉は代理店からの情報を分析、大胆な商品買い付けと販売を展開する。第一次世界大戦が勃発すると、億単位の商取引をことごとく成功させ、利益を事業拡大に投下。鈴木商店は鋼材、造船、化学、繊維など、あらゆる業種の会社を傘下におくコングロマリットに変身した。

大正六年、鈴木商店の年商は一五億四〇〇〇万円で、三井物産を四億円以上も引き離し、業界トップに立つ。が、第一次世界大戦の終息とともに経営難におちいり、昭和二年倒産。

▲栄町通に面して建てられた日本火災ビルの裏手が、鈴木商店創業の地にあたる。 但馬一憲

日本一の名番頭の素顔

鈴木商店の創業地を訪ねてみた。四五番屋敷は、現在の中央区栄町通四丁目二番地に相当する。大通りと並行して南に裏通りがある。その小路に面して建つ木造二階建て家屋だったというが、近隣の住人で鈴木商店と金子直吉を知る人はまったくいなかった。

鈴木商店の傘下には、倒産時七八社あった。それぞれ再建されるのだが、主要企業には、日商（現・日商岩井）、神戸製鋼所、帝人などがある。昭和二年、金子直吉はこれも鈴木系列企業の太陽曹達（現・太陽鉱工）に招かれ、以後、同一九年に病没するまで相談役をつとめた。

太陽鉱工のトレードマークは鈴木商店と同じもので、同社・鈴木治雄会長は、創業者の直系。金野和夫取締役が指摘する。

「番頭が誠実である、という点は金子相談役以来、当社の伝統と言えます」

直吉は社外に金を出さない主義で、「鈴木の財産は風船玉のようなもの」と、称していた。株式会社への組織転換を否定、株主に配当するくらいなら銀行から借りた方がましと考え、それが破綻へとつながったと指摘される。

彼の私生活は真面目そのもの。酒、タバコをたしなまず、賭事、待合遊びの類には縁がなく、接待もやらない。晩年まで借家住まいで私的蓄財には無関心だった。生涯一度も「社長」の椅子に坐らなかった直吉だが、日本を代表する「名番頭」として、もっと評価されてしかるべきだと思う。

▲栄町4丁目45番屋敷の鈴木商店本店。幻の総合商社の原点となる、木造2階建て家屋。

ベストセラー
文体に大胆さと緊張感！森鷗外訳『即興詩人』刊行

この年、森鷗外の名訳『即興詩人』が刊行され、そのロマンチシズムと斬新な翻訳ぶりが多方面に衝撃を与えた。童話作家として知られるデンマークの作家・アンデルセンの小説を、九年の歳月をかけて翻訳したもの。もっとも鷗外自身は、軍職で多忙のため長くかかったのであって、それで全体の統一感が得られなかったのは残念という意味のことを記している。しかし、その文体には、鷗外ならではの大胆さと緊張感があった。

「羅馬に往きしことある人はピアッツァ・バルベリイニを知りたるべし。こは貝殻持てるトリイトンの神の像に造り做したる、美しき噴井ある、大なる広こうぢの名なり」という冒頭の一節からこの調子を崩すことなく、若き即興詩人・アントニオの波瀾万丈のロマンを活写してみせた。この翻訳は、第一三版の序文で鷗外自身が「国語と漢文とを調和し、雅言と俚辞とを融合せむと欲せし、放胆にして無謀なる嘗試」と記すほど、新しい試みであった。こんな一節もあった。

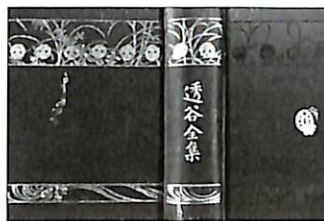
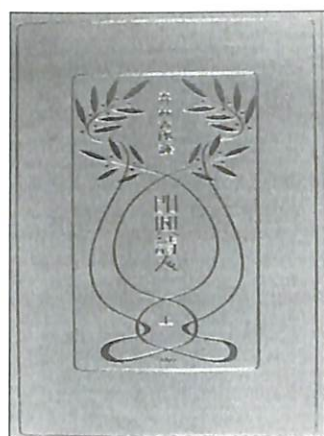
「友を殺し、女に別れ、国を去りて、凶賊の馬背に縛められ、カムパニアの広野を馳す。一切の事、おもへば夢の如く、その夢は又怪しくも恐ろしからずや……」

またこの年、フランスの作家、エミール・ゾラの影響を色濃く残した小杉天外の『波やり唄』が刊行され話題を呼んだ。淫乱の血を受け継いでいるとされる女性がヒロインのこの小説は、客観的描写をよしとする小杉天外の、小説理論の実践でもあった。序文に天外は「自然は自然である、善でも無い、悪でも無い、美でも無い、醜でも無い……小説また想界の自然である」と記し、あくまでも客観的に描写することをめざしていた。

さらにこの年、八〇〇ページにおよぶ『透谷全集』が刊行されている。戸川秋骨の序文や平田禿木、島崎藤村の弔文を含む大部の本で、「万物の声と詩人」などのエッセイや「三日幻境」「双蝶のわかれ」「み、ずのうた」といった作品のほか、ロマンチックな劇詩「蓬莱曲」もおさめられていた。

◀『即興詩人』(春陽堂、上下各60銭)

▲『波やり唄』(春陽堂、五〇銭)

▼『透谷全集』(博文館、一円三五銭)

日本近代文学館提供(3点とも)

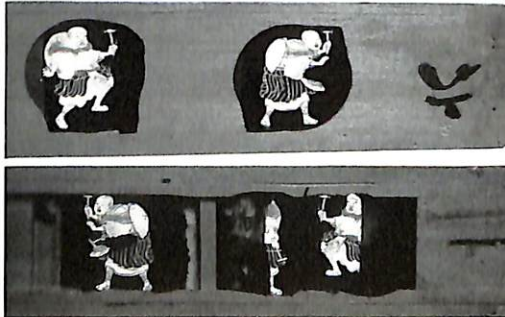
スターと名場面
明治のアニメ「写し絵」で玉川文楽ら演出者が活躍

すでにこの年には「活動写真」という言葉が定着していたが、写真が動くということへの驚きと関心は、次第にソフトを重視する方へ向かい始める。しかし、その後に見られるようなスターはまだ誕生していない。明るい画面を作れないというハード面の課題や、クローズアップができない撮影技術的な問題を抱えていた時代だったから、スター中心に映像が展開するといった作品はまだ望めなかったのである。

同じ時代にビジュアルな見世物として有力だったものに、「写し絵」がある。写真でなく絵を使って、これに動きを与えて見せるという、発想としては映画に近いものだった。暗い会場でスクリーンに映し出される画面には技巧が凝らされており、光と影のファンタジーを作りだしていた。カラーで、しかもさまざまな仕掛けによって、ものや人が動いて見えるのだから、まさしくアニメだった。この「写し絵」の演出者としては、玉川文楽らの名前が知られていたが、さしずめ彼らがスターだったのである。

舞台の方では、新派が活動を始めており、尾崎紅葉ら人気作家の作品を中心に新しい舞台を築いていたが、坪内逍遙をリーダーとする新劇運動も誕生直前の胎動期に入っていた。

▲まだ映画自体が珍しかった頃で、乗りものを写す映像が少なからずあった。写真は、日本橋を写したもの。

◀「写し絵」の種板（フィルムにあたるもの）で、同じ場面の表と裏。これをたくみに操作して、お坊さんがカネをたたくように見せることができた。

小林源次郎蔵

▶日本製映画の第1号とされているフィルム。芸者の踊りが写されている。

モノ語り'02
「アップライトピアノ」「ガスマントル」、官製「記念絵はがき」“本邦初”の製品が次々登場！

◀**ハカリがヒット商品になった時** 明治26年に度量衡法が施行され、民間業者にもハカリ製造が許可されるようになったが、そのひとつ石田衡器製作所（現・イシダ）は、木製の「棹（さお）バカリ」を製造・販売した。使いやすく正確なハカリということで商店などから大きな人気を得て、この年の頃には、年間二万数千本というベストセラーになった。
ハカリの小歴史館蔵／石井美雄

▶**官製の絵はがきが発売された** この年6月18日から、万国郵便連合加盟25周年を記念した「記念絵はがき」が発売された。官製の絵はがきとしてはこれが初めてで、6月10日から始まっていた25周年記念展と並行して売り出されたもの。価格は、6枚一組で5銭だった。
逓信総合博物館蔵／江頭徹

▼**オルガンからピアノの時代へ** 輸入オルガンの修理にヒントを得てオルガン製造を始めた山葉寅楠（とらくす）は、明治30年に日本楽器製造（現・ヤマハ）を設立。33年にはアップライトピアノの生産を開始していた。しかし、この頃はまだ、部品は輸入にたよっていたので、寅楠はその国産化をはかった。そして明治40年頃には、ピアノの最も複雑なメカニズムも、自社生産できるようになったのである。

▲**レコードの時代が近づいてきた** すでに“世紀末”に発明王・エジソンの手で開発されていた蝋管（ろうかん）式の蓄音機が、日本にも入ってきた。写真はこの年に製作され、日本人が購入したスタンダード・タイプのもの。ソフトの蝋管は、円筒形の箱に入れて販売されていた。
梅屋提供

▲**プロの洗濯用具に洗濯板があった** 電気洗濯機が各家庭に普及するまで、洗濯にたらいと洗濯板は必需品だった。しかしそれも、一般に使われ始めたのは、明治末年から大正時代にかけてのこと。この年の頃は、先駆的に“西洋洗濯屋”さんで、「ザラ板」と称する洗濯板が使われていた。洗濯石鹸の普及とあいまって、洗濯板もその後、一般に広がっていく。
五十嵐健治洗濯資料館蔵／太田公平

▼**街灯もぐんと明るさがアップ** 照明器具としてのガス灯の明るさを、およそ5倍もアップさせた「ガスマントル」が、この頃、東京瓦斯から発売された。綿糸や人造絹糸で編んだ袋に、発光剤トリウム、酸化セリウムを吸収させたもので、これにより、明治20年代から始まっていた電灯との競争で押され気味だったガス灯が、その存亡の危機から救われたのである。価格は1個18銭以上で、最上品は1円40銭だった。
がす資料館提供

明るさが変わった

ガスマントルはオーストリアのウエルスバッハが明治19年に発明し、国産品は32年に理学博士の田中正平によって開発され、34年に商標公報に登録された。ガス器具および部品の登録としては、わが国最初のものとされている。明治35年以降発売された商品には、「不知火」「有明」「Apollo」「Hero」といったネーミングがほどこされていた。写真は明るさの比較で、左から蠟燭＝40ルクス、従来のガス灯＝60ルクス、ガスマントル灯＝280ルクス。

がす資料館提供

人物クローズアップ

黒岩涙香（四〇）

主宰する「万朝報」も部数拡大 「噫無情」の連載で人気獲得！

◀明治39年に刊行された『噫無情』前篇の口絵。高山樗牛は、「この簡潔なる訳文を見よ」と激賞した。
伊藤秀雄提供（3点とも）

フランスの作家、ヴィクトル・ユーゴーの代表作『レ・ミゼラブル』が、「噫無情」の題名で「万朝報」紙上に連載されたのは、明治三五年一〇月九日から翌年八月までのことである。この頃、黒岩涙香（四〇）主宰の新聞「万朝報」は、発行部数一二万部を数えて、東京で最大の発行部数を誇る新聞になった。

当時の新聞と言えば、東京日日、報知、時事新報、国民、日本などの〝大新聞〟に、万朝報、朝日、読売、都、中央などの〝小新聞（現在のタブロイド判）〟があり、大新聞がもっぱら政治的主張を述べるのに対して、小新聞は大衆向けの社会的な事件を中心に、センセーショナルな紙面作りを行っていた。

各紙が互いにしのぎを削る中で、「万朝報」が一気に部数を拡大したのには理由があった。希代のジャーナリストにして小説家でもある、黒岩涙香の存在である。涙香の卓越した時代認識と勧善懲悪に徹した報道、それにみずから翻案した、探偵小説を中心とする西洋の小説の連載が、多くの読者を獲得していったのである。

▲涙香が創刊した「万朝報」。論説欄に内村鑑三、幸徳秋水らを迎え、英文欄も設けられていた。

黒岩涙香は、文久二年（一八六二）九月二九日、土佐国安芸郡川北村（現・高知県安芸市）生まれ。本名は周六。生まれてすぐ、父の弟・直方の養子となる。明治一一年、大阪英語学校（三高の前身）に入学。翌一二年、姉をたよって上京し、慶応義塾に入学したがまもなく中退、政治や法律の本を乱読した。

明治一九年、「絵入自由新聞」に入社。めきめきと頭角を現し、翌年からは社説を執筆するようになった。探偵小説の翻案をするようになったのもこの頃からで、これが大評判となり、二二年には「都新聞」（現・東京新聞）の主筆となった。この時、二七歳。

涙香が「万朝報」を発刊したのは、明治二五年一一月のこと。紙名は、これを読んだ人がいろいろと重宝する意の「万重宝」をもじって名づけられた。大衆が興味を持つ三面を中心に、あらゆる方面の記事が配され、文字は総ルビつきで簡単明瞭。読みやすいうえに、値段も一部一銭（他紙は一銭五厘）と最も安かった。

「万朝報」を一躍有名にしたのが、発刊後まもなく起きた相馬家騒動である。旧大名・相馬家の御家騒動で四面楚歌の状態にあった旧臣の錦織某を、熱烈な筆致で弁護したのが読者に大いに喜ばれ、部数を拡大するのに大貢献。しかもこうした涙香の報道姿勢が、その執拗さから「まむしの周六」の異名を呼び、さらに「鉄仮面」「巌窟王」などの翻案小説や英文記事の掲載など、涙香の紙面作りは他紙を圧倒し続けたのである。

黒岩涙香の研究家で評論家の伊藤秀雄氏は、涙香の功績を次のように述べる。

「最大の功績は、大衆文学の基礎を築いたこと。昭和初期の大衆文学隆盛期に大きな影響を与えていて、江戸川乱歩や吉川英治は涙香から多くのものを学んでいます。そして、相撲の解説を新聞でやったりしたのも涙香が最初ですし、五目並べを『連珠』と命名したのも涙香です」

涙香が肺癌のため、五七歳で生涯を終えたのは、大正九年一〇月六日。そして「万朝報」が「東京毎夕新聞」に併合され、その歴史を閉じるのは、涙香の死から二〇年後の昭和一五年のことである。

▲涙香は探偵小説を翻案する際、まず日本人向けにプロットを組み替え、連載1回ごとに原作の該当箇所を読み返し、執筆時には原作を目にしないという方法をとった。

決定的瞬間

わずか八〇〇頭、絶滅寸前！名ハンターから野牛保護官にバッファロー・ビルの大変身

濃い髭の男が、ライフルを片手に立っている。西部劇の俳優のように見えるが、彼こそ伝説的な西部の男、バッファロー・ビル（五六＝本名、ウィリアム・フレデリック・コーディ）である。斥候、バッファロー（アメリカ野牛、バイソンとも言う）狩りの名手、西部の案内人として生き、一九〇二年八月二三日にバッファローの保護官に任命された。バッファローは家畜化がむずかしく、広大な草原を必要とするため、保護のためには密猟を防ぐしかない。アメリカ政府は、彼のような著名な男を保護官にすることで密猟者を牽制し、野牛保護の姿勢を強調したかったのだろう。

　バッファローは、牡だと体長三メートル、体重は八〇〇キロ前後にもなる巨大な草食獣である。野牛の群れを初めて見た初期の開拓者は、「茶褐色の絨毯が移動しているように見えた」と語る。そうした光景は、一八〇〇年代初頭まで目撃されていた。しかし、西部開拓によって野牛は減少の一途をたどる。アメリカの動物物語作家・シートンは、未開拓時代のアメリカには六〇〇〇万頭以上の野牛がいたと推定している。ところが、一八〇〇年には四〇〇〇万頭、約一〇〇年後の一八九五年にはなんと約八〇〇頭にまで激減した（『シートン動物誌』紀伊国屋書店）。

　一八三〇〜七〇年にかけて、野牛の毛皮の交易は西部の花形産業となり、組織的な狩りが行われた。また、東西から建設されていた鉄道が一八六九年にユタ州でつながり、西部のいたるところに町ができた。農場には柵が張りめぐらされ、発見された野牛は、鉄道労働者の食料として、観光のための狩猟獣として殺され、中には列車に激突する野牛もいて、その数は急激に減っていく。こうした危機の中、イエローストーン国立公園に逃げこみ、生き延びているものもいた。バッファロー・ビルが保護官になったのは、こうした野牛を保護するためだった。

　ところで、ウィリアム・フレデリック・コーディが〝バッファロー・ビル〟というあだなを持つようになったのは、南北戦争（一八六一〜六五年）後のことである。運送業者、斥候などを経て、カリフォルニアから東に伸びるセントラル・パシフィック鉄道建設のために働く一二〇〇人の労働者に、新鮮な野牛の肉を届けるという仕事をしていたからだ。この仕事がきっかけで労働者たちは彼をバッファロー・ビルと呼ぶようになった。

　鉄道が完成した後は、狩猟やインディアンの踊りなどを見せる観光ガイドをしていた。この時、劇作家で興行師でもあったネッド・バントラインと出会い、一八八三年からは西部での体験を生かした「ワイルド・ウエスト・ショー」の主宰者として活躍する。彼のショーには本物の馬、ガンマン、インディアンが登場し、忘れ去られようとしていた西部開拓のドラマをリアルに体験させるものであった。このショーの成功で、彼はニューヨークはもとよりロンドンでも公演（一八八七年）するという世界的な名声を得る。

　こうした著名人であるバッファロー・ビルが保護官に任命された一九〇二年の野牛の数は一〇九二頭で、あいかわらず絶滅の危機に瀕していた。アメリカ政府はその後、四ヵ所に新たな保護区を設け、徐々に数をふやして、一九二〇年代には一万頭にまで回復。一九七〇年代に入ると、北アメリカ全体で三万頭を超え、ようやく絶滅の危機を脱したのである。

▼獲物を仕とめたばかりのバッファロー・ハンター。撮影は1904年、すでに野牛は絶滅の危機に瀕していた。

CORBIS-BETTMANN／PPS（2点とも）

▶生存中から伝説の人物と化したバッファロー・ビル。彼が主宰したショーは、スー族の首長、シッティング・ブルや女傑のアニー・オークリーを加えて、人気を博す。

美の出会い

法隆寺のルーツをさぐる旅で 建築家・伊東忠太の大成果! 大同で北魏「雲崗石窟」を発見

　中国の北京で紫禁城の調査を終えた東京帝国大学工学部造家学科（建築学科の前身）の助教授・伊東忠太（三四）は、明治三五年六月、山西省北部の大同で北魏時代の仏教遺跡「雲崗石窟」を「発見」した。これまでこの地では、古い仏教遺跡があることは知られていたが、ほとんど話題にものぼらなかったのである。

　北京を出発して二週間後の六月一六日夕刻、忠太は大同に到着。その翌日、知県（知事）の龍氏に面会し、「この地に珍しい古建築はないか」と尋ねると、龍氏は「書物によれば、大同の西三十里の雲崗に北魏時代の遺跡があるそうですが、私は見てない。文献も誇張が多いから信じられない」と答えた。

　忠太は翌一八日の朝四時に起き、府庁の役人と兵士に案内されて、馬でおよそ二〇キロ進んだ武州川の北岸崖壁にいたった。そこで、彼は約一キロにもわたる仏石窟群をみいだした。その時の興奮ぶりを、忠太は日記に記している。

　「実ニ我ガ法隆寺式ト全ク同シキモノアリ、鳥（鞍作止利）作ノ仏ト符合スルモノアリ、壁画ト同型ノモノ、金堂建築ノ手法ト符合スルモノ、実ニ意外ノ又意外、余ハ法隆寺ノ郷里ヲ知リ得テ其嬉シキ事限ナク、昼飯ヲ食フノ時間モ惜マレ午後五時ヲ過クルマデ一気ニ調査シテ事ノ要領ヲ得タリ」

　忠太は一〇時間ほど調査を続け、スケッチブックに一三ページ半ほどの記録を残しただけである。この大発見にもかかわらず、旅を急ぐ忠太は、さらなる調査の必要性を承知しながらも、出発しなければならなかった。龍氏に雲崗石仏はたしかに北魏のものであることを報告し、ひとまず北京に戻る。ここでは公使館などで講演して、雲崗石窟寺院を紹介した。この話を耳にしたハノイ駐在のフランス人東洋学者・シャヴァンヌは、さっそく現地調査を行い、その結果をパリで報告、雲崗の話題はたちまち世界中に伝わった。忠太の功績は完全にかき消されてしまったのだ。後に忠太は、「こういう点では欧米人はなかなか抜け目がないね。日本人はいつも損をする」と語っている。

　慶応三年（一八六七）に山形県米沢で生まれた伊東忠太は、明治二五年、帝国大学工科大学造家学科の卒業論文に「建築哲学」を提出。続く明治二六年には、大学院卒業論文・学位請求論文として「法隆寺建築論」を発表し、師の辰野金吾から日本建築史の研究者として将来を嘱望されていた。

　当時の建築界は〝お雇い外国人〟建築家・コンドルによって紹介された建築学が主流で、そこではヨーロッパ、さらにはイギリスの建築が最高のものとされていた。これに異を唱えたのが伊東忠太である。岡倉天心の影響を受けた忠太は、日本の建築から、さらに中国・インドなど東洋の建築の比較研究を進めるとともに、民族による建築の自立を訴えていた。

　卒業論文の中でも忠太は、法隆寺は世界最古の木造建築であり、法隆寺の柱はギリシャ建築のエンタシスの様式を伝えたものであると主張していた。

　この明治三五年の旅行も、実は法隆寺建築のルーツをさぐるためのもので、中国、ビルマ、インド、中東、エジプトまでを馬やロバで踏破し、ギリシャに向かう途中だった。以後、イギリスやアメリカをまわり、明治三八年に帰国するまでの三年間におよぶ大旅行になる。

　世界旅行から帰国すると、忠太は東京帝国大学教授に就任し、建築家としても大活躍する。明治神宮をはじめ湯島聖堂、築地本願寺など多くの寺社を手がけたほか、大倉集古館、震災記念堂などの設計も行っている。これらの建物には不思議な形をした動物や化け物が数多く見られる。建築のディテールにも、中国やインドなど東洋の幻想的な動物の断片をちりばめたのである。

　このように日本近代建築の初期に、途方もないエネルギーを放った建築家・伊東忠太ではあるが、その名を今日聞くことはきわめて稀である。西洋をあがめ、東洋を蔑視した当時の日本の風潮は、建築界にもおよんでいたのだろう。文化庁文化財保護部建造物課の稲葉信子氏は、次のように語る。

　「近代建築史は、東京駅や日本銀行などを設計した辰野金吾の系列を追った西洋建築を中心に記述されてきました。そうした中で、明治二〇年から四〇年代の東洋思想の復興を背景とする建築は、忘れ去られてしまったのでしょう。伊東忠太はアジア建築の核となる人物です。もっと評価されていい人物だと思います」

▲伊東忠太のフィールド・ノート。一三ページ半にわたり、雲崗石窟の平面図、仏像、壁面の文様などが描かれている。

▲雲崗石窟第20洞露仏前で。右端が伊東忠太（昭和5年の再訪時に撮影）。高僧・曇曜（どんよう）により460年から開削され、敦煌や龍門とともに三大石窟と称される。　伊東家・日本建築学会所蔵

「糸瓜咲て痰のつまりし仏かな」
病床6年、カリエスの痛みに耐えながら創作！
正岡子規、「仰臥漫録」の日々

▲明治33年12月24日、根岸の写真館・春光堂が撮影した、子規の生前最後の写真。

病床に伏したままの歳月は、すでに六年を経過していた。その肺は左右ともほとんど空洞状態で、さらにカリエスの痛みも加わり、自力では動きもままならぬ重病人——このような体で、正岡子規は強靱な精神力と旺盛な創作欲に支えられて生き続けてきた。だが、医者に「奇跡」とまで言わしめた生命力は、ついに末期の時を迎える。

「痩せに痩せたる手」でしたためられた絶筆

明治三五年九月一八日午前一一時すぎ、下谷区上根岸八二番地の子規庵の一室で、正岡子規（三四）は病床に横たわったまま画板に貼った紙に、「をととひのへちまの水も取らざりき」「糸瓜咲て痰のつまりし仏かな」「痰一斗糸瓜の水も間にあはず」と筆で記した。それから、こんこんと眠ったり、うつらうつらしたりしていたが、午後五時頃、急に「あッ、痛ッ、くそッ」と叫びながら激しく苦悶し始めた。

妹の律（三二）が急いで枕元のモルヒネを服用させるが、全然きかないと泣きわめく。電話して宮本主治医がやって来たのは三〇分後である。宮本は特にあわてる様子もなく、「また注射しますかな」とつぶやいて注射を打ち、「今に楽になりますよ」と言う。やがて、子規は静かになり、すやすやと寝入った。

子規が冒頭の三句をしたためた時からずっと付き添っていた河東碧梧桐（二九）は容態が落ち着いたので、神田猿楽町の家へひとまず帰って行く。帰宅後、床についてまもなく、電話のベルで起こされた。受話器を取ると「のぼさん（升＝子規の幼名、親しい仲間内ではこう呼んでいた）、お死にだよ」と、高浜虚子（二八）のうつろな声が聞こえてきた。

▶明治三五年五月五日から、死の二日前、九月一七日まで、一二七回にわたって新聞「日本」に連載された随筆「病床六尺」の原稿。

松山市立子規記念館提供

20世紀博物館

北海道開拓記念館
ナウマン象の時代から現代までをスケール大きく展開！

北海道・札幌市

桑原茂夫

▲ナウマン象の骨格。周囲は、凍る大地を表した白い半透明のプラスチック材で囲まれている。　北海道開拓記念館提供

このミュージアムは「北海道開拓記念館」と名乗ってはいるが、まだ大陸と陸続きだった遠い昔から現代までを、いっぺんに見渡してしまおうというスケールの大きな〝北海道の博物館〟なのである。

常設展示室だけで三〇〇〇平方㍍という広い空間が、八つのコーナーに分けられている。最初のコーナーで、いきなりナウマン象の骨格に出合う。ほぼ一頭分まとまって発掘されたのをもとに復元したもので、北海道が島でなかった時代の象徴的存在である。そして、縄文期から続縄文期と言われる大昔に、ここで生活していた人たちの様子が、仮面や食器などの出土品の展示とジオラマで示されている。

やがてオホーツク文化やアイヌ文化などの北方文化が確立してくるのだが、その様子は第二のコーナーで紹介される。ここには、正統的なアイヌ民族の家が原寸大で展示されている。昭和四六年の開館時に、地鎮祭やさまざまな儀式をとり行って建てられた、本格的な建物なのだ。たとえば東側に開いた窓は、神が出入りする神聖な窓なので、そこから中をのぞきこむことなどはタブーとされている。

▼原寸大のアイヌ民族の家。すべての正統的な儀式を経て建てられており、神聖な区域となっている。タブーも少なからずある。

また、アイヌ民族の、大自然とのたくみなつきあい方を知ることもできる。特に、ヒグマとの関係は教訓的である。ヒグマの肉や皮は神が人にもたらす恵みであり、これを受け取って魂を神のもとに返せば、再び神から恵みがもたらされるという信仰のもとに、アイヌ民族はヒグマと対してきた。ここでは、毎年春に行われるクマ送りの詳細が展示されており、信仰の具体像が見えるようになっている。

さて第三のコーナーからは、そのような文化を持つアイヌ民族の地を蝦夷地と呼び、交易と征服の対象としてきた鎌倉幕府以降の「和人」たちとアイヌ民族との関係が、物品や文書、あるいはジオラマなどによって、きわめて具体的に示されている。中には、徳川家康が松前藩主に与えた、アイヌ民族との交易独占権を認める「黒印状」など大変貴重なものもある。この「黒印状」は、時の権力者による文字どおりのお墨付きであり、松前藩がアイヌ民族に対して次第に強圧的になっていく後ろ盾ともなったものである。

▶昭和三〇年代まで見られた光景。山で伐った木材を馬ソリで運ぶ。ここでは、馬がソリで運べるぎりぎりの重さを想定して、五本の樹木を積載している。

◀アイヌ民族が松前藩と交易した時の物品。木綿糸やタバコ（の葉）、酒、椀などを、生きた鶴や水産物と交換して入手していた。

そして明治時代に入って、政府の出先機関として「開拓使」がおかれ、アメリカ人技師たちを招いての本格的な「開拓」と「近代化」がはかられるのであるが、ここでも開拓使札幌本庁舎の模型や屯田兵の制服、かのクラーク博士の手紙、官営工場で作られた缶詰やビールなど、具体的なものが展示されており、「開拓」の勢いや熱気が伝わってくる。

やがて太平洋戦争の時代を経て、戦後社会に入っていくわけだが、とてつもなく長い時間を追うわりにはあわただしさは感じない。展示室の広さのせいもあるだろうが、建物が二〇〇〇㌶余の広大な野幌森林公園の一角にあり、入る前からゆったりとした気分になれるからかもしれない。北海道ならではのことである。

●北海道開拓記念館
札幌市厚別区厚別町小野幌五三—二
☎〇一一—八九八—〇四五六
JR千歳線・新札幌駅からバスで記念館入口下車、徒歩三分
開館時間＝九時半〜一六時半
休館日＝月曜日、年末年始、祝日（五月三〜五日、九月一五、二三日、一一月三日は開館）
入館料＝一般三〇〇円

▲写真の添え書きには「余ハ右ノ肱ヲ枕ノ上ニ托シテ半身ヲ蒲団ノ外ニ出シ居リ　枕元ニアルハ俳稿歌稿『我病』ノ原稿也」とある。

◀明治三〇年一二月二四日、子規庵で第一回蕪村忌が行われた当日、縁側でくつろぐ子規。

松山市立子規記念館提供

子規がひっそり息を引き取ったのは、九月一九日午前一時頃だった。その三、四時間前、ちょっと目をさまして「牛乳でも飲もうか」と言い、律が差し出したゴムの管からひとくち飲んで、落ち着いた声で「誰々が来ておいでるのぞな」と尋ねた。律が枕元にいた虚子、寒川鼠骨と碧梧桐の姉の名を告げると、答えず眠りにつき、そのまま蘇らなかった。

すでに冷たくなっていた子規の肩に手をかけて、母の八重（五六）が流れ落ちる涙に似合わぬしっかりした声をかけた。「さあ、も一遍痛いと言うておみ」

このひとことで、律の嗚咽が一段と高まった。

重病人とは思えない健啖ぶりを発揮する

慶応三年（一八六七）九月一七日、伊予国温泉郡藤原新町（現・松山市花園町三番五号）に生まれた正岡子規は本名を常規、幼名を処之助と言ったが、後に升と改めた。

明治一三年春、一二歳で県立松山中学に進んだ子規は、一六年五月、同中学を中退して上京。翌一七年九月、大学予備門（一九年より第一高等中学）に入学。夏目漱石と同じクラスになって親交が始まる。二二年五月九日夜、子規は突然喀血に見舞われた。翌日、友人に勧められて医師の診察を受けると「肺（結核）」と言われた。その夜、一一時頃、また血を吐き、それから一週間、毎晩、小さな湯呑み一杯ほどの喀血が続いた。この時、「卯の花の散るまで鳴くか子規」「卯の花をめがけてきたか時鳥」など数十句を作り、"鳴いて血を吐く子規"から子規と号することにした。

漱石とともに東京帝大文科大学へ進学した子規は二五年九月、退学する。漱石との親しい交わりはその後も続き、子規は漱石を「畏友」「談心の友」と称して敬愛の念を隠さなかった。

東大を中退した子規は、叔父・加藤拓川（ベルギー公使などを歴任）の親友、陸羯南が経営する日本新聞社に入社する。新聞「日本」ではまず「芭蕉雑談」を掲載し、蕉門俳人に対して「月並み社会の俗調」と厳しく論評、芭蕉偶像化を真っ向から批判した。いわゆる俳句革新運動の狼煙をあげたのである。

日清戦争に記者として従軍志願して、遼東半島まで出かけたのは二八年四月一五日である。子規は戦場に足を踏み入れなかったものの、約一ヵ月、現地に滞在した。そして五月一七日、帰国途中の船中で再び喀血し、かなりの重体で神戸病院へ緊急入院する。すぐに駆けつけてきたのは子規に師事していた虚子、碧梧桐らだった。

久方ぶりに上根岸に戻った子規は、ひどい腰痛に悩まされ、歩行も不自由になった。リウマチとばかり思っていた痛みがカリエスと判明したのは二九年三月である。すぐに手術を受けたが、以後、床につく日がめっきりふえていった。まだ多少元気だった二三年暮れに身長一六三チセン、体重五一キロだった肉体は、この頃、体重三七キロそこそこにまで衰弱していた。死の直前まで、日本新聞社から届けられていた月給四〇円と俳誌「ホトトギス」の原稿料一〇円がおもな収入だったが、経済状態は厳しく、子規は自室に喜捨袋をおいていた。

すっかり寝たきりの状態になってしまった子規は、明治三四年九月、「仰臥漫録」の執筆を始め、死の半月前まで書き継がれている。その内容は大半が日々の食事の記録で、たとえば三四年九月五日はこんな風に書かれている。

「朝、粥三椀、佃煮、瓜の漬物。昼、めじのさしみ、粥四椀、焼茄子、梨二つ。間食、梨一つ、紅茶一杯、菓子パン数個。夕、鶏肉、卵二つ、粥三椀余、煮茄子、和加布二杯酢かけ」

とても、重病人とは思えない健啖ぶりがうかがえる。

「とにかく、ひたすら食べていますね。それはこの食事で弱り切った体を駆りたてて、みずからを創作、批評活動に向かわせようとしていたのだと思います」

と語るのは、文芸評論家で東洋大学講師の樋口覚氏である。氏は、子規の多方面にわたる活躍を高く評価したうえで、

「俳句では、やはり蕪村を賞揚したことがあげられます。それは、伝統詩としての俳句の大きな革新につながりました。短歌でも同様に、紀貫之を批判し、実朝を真っ正面に押し出してみせた。こちらも短歌の革新に寄与しました。そのほか、数多くの才能をみいだし育て上げた点など、子規は明治を代表する第一級の文化人と言えます」

と指摘している。

子規は「写生」の主張によって俳句、短歌を革新したが、文章においても「写生文」を提唱した。その文体観は虚子や漱石に継承され、日本近代文学の源流となるのである。

▲子規愛用の矢立。　子規庵保存会提供

▲旅装束の蓑（上）と笠（右上）。子規には紀行文も多い。

松山市立子規記念館提供（3点とも）

▲中国の金州に旅した際、持参した旅行鞄。

国立国会図書館提供

▲死の3ヵ月前から描き始めたとは思えない、明るいユーモアをたたえた画集「菓物帖」より。

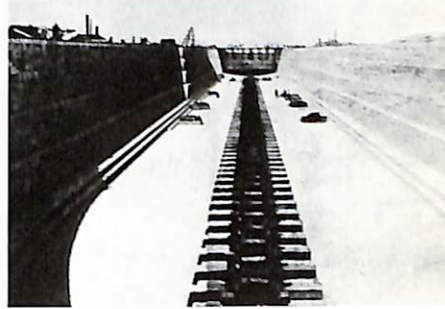
▶子規没後、妹・律が正岡家の戸主となり、叔父・加藤拓川の三男・忠三郎を養子にした。左から律、忠三郎、母・八重。

7〜8月

フォト＋日録で再現する365日

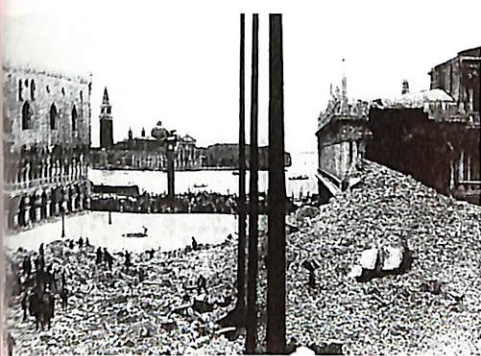
毎日新聞社

▲**小島烏水、槍ケ岳初登頂(7月)** 文芸批評などを執筆するかたわら、志賀重昂の『日本風景論』に感化されて挑戦。28歳。写真左は、槍ケ岳の剣ケ峰。明治38年には日本山岳会を創立した。

▲**ルノー、完全優勝(7月15日)** パリーウィーン間のスピード競走に7台出場、各部門で優勝。総合でもマルセル・ルノー運転の新型4気筒3800ccが、29時間30秒で優勝した。

▶**川崎造船、ドック竣工(7月)** 大型船舶需要にこたえ、6000トン級用の船台を建築。41年までにさらに増設し、3万トン級の建造能力を備えた。

▼**笹子トンネルが貫通(7月6日)** 中央東線の山梨県・笹子と初鹿野間4656メートルが、難工事のすえ完成。この成功で鉄道の優位が決定的となり、川舟は衰退した。写真は、トンネル東口。

「Black&White」

▼**イタリア最古の鐘楼無惨(7月14日)** ベネチア名物、高さ97メートルの聖マルコ教会のゴシック式尖塔が突然、崩壊。160年前の落雷が原因だったが、建築家は安全としていた。

▲**エドワード7世戴冠式(8月9日)** 国王の行列は、ロンドンの街を埋めた市民に送られ、式場のウェストミンスター大聖堂に向かった。写真は、天皇名代・小松宮ら日本使節団。

明治35年7月

1(火) ●大日本綿糸紡績同業連合会、毎月四日間を昼夜休業とする操業短縮を実施(〜12月31日)。

2(水) ●露大公・アジミロウィチ殿下が来日。

3(木) ●東京の第一・三井・三菱など大手六銀行、初めて預金利率を協定。定期預金は六分五厘。

4(金) ●国語調査委員会、言文一致体の採用を決定。

5(土) ●山陽鉄道、石炭輸送強化で最新専用車投入。

6(日) ●中央東線・笹子トンネル貫通(着工六年目)。

7(月) ●資生堂、「米国製曹達噴水機」によるソーダ水とアイスクリームの販売を開始、と新聞に。

8(火) ●東京・麻布で私立衛生会のコレラ予防幻灯会。

9(水) ●文部省、各地の中学校や師範学校で同盟休校など続出のため、生徒の厳重取締りを訓令。

10(木) ●東海道線急行列車に電気扇風機が設置される。

11(金) ●新潟県直江津で大火、一〇〇〇戸焼失。

12(土) ●英、バルフォア保守党内閣が成立。

13(日) ●帝国教育会、英語教授法研究部を設置。

14(月) ●海軍高等官の間で、人力車利用を廃し自転車を用いるもの多数、と新聞に。

15(火) ●呉海軍工廠の労働者五〇〇〇人、廠長排撃などで騒乱、スト決行(18日、軍隊出動し鎮圧)。
●パリーウィーン間の自動車レースで仏・ルノー車が総合優勝。二九時間三〇秒。

16(水) ●内田良平ら日露協会発企会を開催。

17(木) ●博文館発行の「文芸倶楽部」、着色した女性写真を掲載。雑誌では初めての三色印刷。

18(金) ●元帥・西郷従道死去。五九歳(23日、海軍葬)。

19(土) ●鐘紡、九州紡績・中津紡績と合併契約に調印。

20(日) ●警視庁が武術統一で講道館柔道採用と新聞に。

21(月) ●英で国際労働者会議。賃金・住宅問題を討議。

22(火) ●警視庁、烏森の寄席に一五日間営業停止処分。同寄席で人気の娘手踊りが猥褻との理由。

23(水) ●米国政府、伊豆諸島・鳥島の日本帰属を承認。

24(木) ●東京・板橋の陸軍火薬製造所爆発。四人即死。

25(金) ●『明治国民亀鑑』(内務大臣官房編)刊行。明治一四年制定の褒章条例以降の受章者を紹介。

26(土) ●海軍、常備艦隊司令長官に日高壮之丞を任命。

27(日) ●警視庁が各警察署の刑事・巡査らを内部調査、巡査二名を収賄で取り調べ、と新聞に。

28(月) ●農商省、鮭鱒人工孵化・放流五カ年計画を策定。

29(火) ●清国留学生五十余人、日本学校入学の保証を拒んだ清国公使館に大挙陳情。

30(水) ●東京・四谷駅で轢死者供養式を挙行。

31(木) ●農商務省商工局、「工場調査要領」を発表。

証言・あの日この日

尾崎紅葉(35)

10月2日(木) 〈足下は予が名声を買ふのか、或は箇の病骨を買ふのか。秋山氏は曰ふ、固より其の病骨を買ふのである。奇なる哉言や、予が入社の意は之が為に愈よ動いた〉(尾崎紅葉「入社の辞」)

読売新聞社員として、「読売新聞」に「金色夜叉」を連載していた尾崎紅葉は、病気で倒れる。療養しながら執筆を続けるが連載はしばしば中断、この頃ほとんど執筆不可能になっていた。しかもこの連載中断は、以前から紅葉の遅筆に不満を持っていた読売新聞・本野社長の機嫌をそこねることになる。そして100円の月給支払いの件で対立し、気分を害した紅葉は読売新聞を退社する。当然「金色夜叉」の連載は未完のまま打ち切りとなった。そういう危機的状況の紅葉に、救いの手をさし伸べてきたのが、二六新報社の秋山定輔社長だった。しかし、紅葉は一年後に死去する。(山崎行太郎)

北川太一提供

▲**高村光太郎、東京美術学校彫刻科卒業(7月1日)** 詩人・彫刻家の船出だった。写真は卒業記念。後列左から3人目が光太郎、前列中央右が教授だった父・光雲(50)。

▶**台湾製糖、本格操業(8月)** 総督府の保護下で、特産の甘蔗から粗糖を製造する工場を、台南・橋仔頭庄に建設(写真)。昭和14年には台湾に15、本土に2工場を有した。

▼**原敬、衆院初当選(8月10日)** 第7回総選挙に、盛岡市から立候補。46歳。明治33年、政友会結成に参画、次第に対藩閥・官僚の雄として実力をたくわえていった。

毎日新聞社

▲**西日本に豪雨(8月12日)** 夜半から激しい風雨に見舞われ、九州・中国・四国地方で、死者約200人、家屋・橋梁流失などの被害が続出。写真は、水浸しになった山陽鉄道の柳井駅前。鉄道も各所で寸断された。

原敬記念館提供

▼**鳥島で火山大爆発(8月7日)** 南海の孤島が溶岩でおおわれ、全島民40戸125人が命を失った。この惨事は、噴火予知の必要を痛感させ、火山活動研究のきっかけとなった。

「東京日日新聞」

明治35年8月

1(金) ●米国・カリフォルニア州で世界最大のメタセコイア発見。幹の周囲は三二メートル。
●海軍、青森に大湊水雷団を開設。

2(土) ●米の不作予想で米穀市場の米価高騰。

3(日) ●愛知県に流行の赤痢、一月以来の死者五〇人。

4(月) ●長岡半太郎ら、「鋼の磁気歪」の研究を発表。

5(火) ●新設の東京手形交換所、地方手形の交換開始。

6(水) ●埼玉・大宮の機織業者四人を女工二四人虐待で検挙(10月31日、重禁固二年の判決)。

7(木) ●伊豆諸島の鳥島が大爆発、島民一二五人全員が死亡し、島は無人化(〜9日)。

8(金) ●東日本に台風、鉄道各線が不通、谷中村冠水。

9(土) ●英・エドワード七世、戴冠式を挙行。

10(日) ●第七回総選挙(国会開設以来初の任期満了総選挙)。政友会が結党後初選挙で第一党となる。

11(月) ●片山潜ら、東北地方遊説に出発。

12(火) ●西日本に台風、死者二百余人、岩国の錦帯橋が崩壊するなど被害甚大。

13(水) ●米価暴騰見こし横浜港の外国米払底と新聞に。

14(木) ●東京砲兵工廠で賃下げ反対スト(一八人解雇)。

15(金) ●露公使館付武官に明石元二郎中佐、仏公使館に久松定謨少佐が就任。欧州の情報網整う。

16(土) ●コレラ猖獗のため海外渡航者の検疫を強化。
●ロンドン留学を終えた大谷光瑞が、中央アジア仏跡探検に出発(翌年帰国)。

17(日) ●インドで大干ばつ、綿花栽培に憂慮と新聞に。

18(月) ●東京・浅草の伝法院境内に公衆運動場開場。

19(火) ●三代目杵屋六四郎ら、長唄研精会を設立。

20(水) ●宮崎滔天、『三十三年の夢』刊行。

21(木) ●興銀が第一回興業債券二〇〇〇万円発行。一般応募少なく、一三五万円は預金部引き受け。

22(金) ●米・キャデラック社発足(翌年、第一号車発売)。

23(土) ●絶滅寸前のアメリカ・バイソンの保護育成のため、「バッファロー・ビル」が保護官に。

24(日) ●江ノ島水族館が開館。数百種の標本を陳列。

25(月) ●富士紡績、米国に絹糸・紡績糸を日本初輸出。

26(火) ●東京に自転車学校が開校(校長・大原重朝)。

27(水) ●埼玉県下の宗教家ら、虐待工女救済会を設立。

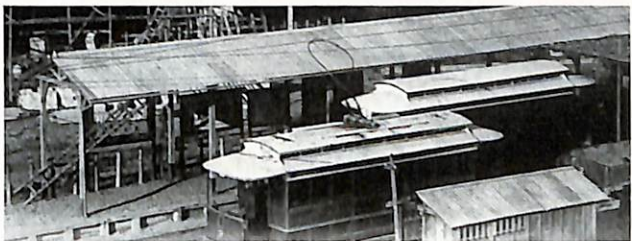
28(木) ●横浜・旧居留地の家屋課税問題で英・仏・独と、仲裁裁判に付すことで合意(日本敗訴)。

29(金) ●古楽復活めざす日本仏教音楽会が東京に発足。

30(土) ●北海道国有森林原野特別処分公布。製紙業・マッチ軸木製造業などへの貸与・売渡規定。

31(日) ●長崎税関、韓国からの清酒密輸団を摘発。

「ふじさわ」

◀江ノ電が開業(9月1日)神奈川県の藤沢―江ノ島間の片瀬まで完成、ドイツ製電車が走った。しかし、初日に満員電車が鵠沼付近で脱線、大混乱した。写真は藤沢駅。明治43年に鎌倉まで開通した。

▶浅井忠、京都高等工芸学校教授に(9月11日)帰国を機に東京美術学校を辞職、新設校に着任した。関西洋画界育成に尽力。写真は、畔道に座る浅井(46)と東京の門下生たち。

◀ゾラ、パリで急死(9月29日)暖炉の不完全燃焼による、一酸化炭素中毒だった。62歳。『実験小説論』や『居酒屋』などの作品は、自然主義文学の世界的潮流を生んだ。

▲若き永井荷風(9月)10日に『地獄の花』を出版して認められた。写真は、東京・大久保の自宅で。左から二人目が荷風(22)、両親が父母。翌年、渡米した。

▲竹本越路太夫、摂津大掾を拝命(9月10日)浄瑠璃界で美声と優美な芸風で人気を博し、故・小松宮の遺命が下った。66歳。翌年、襲名披露興行を行った。

▶絶頂の川上一座(9月)米国に渡り好評を博して、凱旋帰国。翌年『オセロ』などの翻訳劇に挑戦し人気沸騰。写真中央が貞奴(21)、右が音二郎(38)。

川上富司提供

三井文庫提供

▲三井本館が竣工(10月)東京・日本橋に、地上4階・地下1階の三井の総本山が誕生。耐震構造を研究した横河民輔が設計。鉄骨に煉瓦壁を積み上げる、鉄骨構造建築の先駆となった。

◀南方熊楠、菌類採集に没頭(10月9日)大英博物館勤務を終え、前年から故郷の和歌山県田辺町を拠点に山野に分け入り、キノコの分類と彩画を製作。写真は、採集に向かう熊楠(右)。

『ジェイムズ・ジョイス伝』みすず書房提供

▲ジョイス、大学卒業(10月31日)ダブリンのユニバシティ・カレッジ卒。20歳。2年前に論文「イプセンの新しい劇」を発表。小説形式の極北をめざし、後の活躍の片鱗を見せていた。

▶石川啄木、上京(10月31日)カンニング事件で盛岡中学を退学、新天地を求め上京した。写真は英語学習仲間との上京記念。前列左端が16歳の啄木。

CORBIS-BETTMANN/PPS

◀仏警察、指紋採用(10月16日)パリ警視庁が完成。前年、ロンドンで採用されたヘンリー式に比べ、識別の迅速さと確実性を誇った。日本の採用は明治41年。

▶早稲田大学が開校式(10月19日)明治15年に設立の東京専門学校が改称、私立で初めて大学となった。開校式で創立者の大隈重信(写真右)は、学問の独立などを含む「建学精神」を説いた。

明治35年9月

1(月)●江ノ島電気鉄道、藤沢―片瀬間が開業。
●吉沢商店、レコード併用の発声活動写真として、輸入映画を初めて明治座で公開。
2(火)●東京専門学校、早稲田大学と改称(10月開校)。
3(水)●八幡製鉄所吏員の石炭横流し発覚、三人検挙。
4(木)●豪が有色人労働者を排斥、と新聞に。
5(金)●英、清国と通商航海条約調印(マッケイ条約)。
6(土)●山口県下にコレラ続発、小郡町で一〇人死亡。
7(日)●韓国元帥府、弁髪禁止令を発布。
8(月)●千葉の日刊紙「新房総」、記事内容が官吏を侮辱したとして記者に禁固一月、罰金五円。
9(火)●能楽会付属能楽堂を東京・靖国神社に奉納。
10(水)●台湾製糖、三井物産と製品一手販売契約締結。
11(木)●讃岐鉄道、初めて女子を社員として八人試験採用、職種は客車喫茶室のウエイトレス。
12(金)●憲政本党、増税継続反対の檄文を全国に配布。
13(土)●川崎造船、輸出第一船として、清国・上海税関の灯台巡視船「流星」を竣工。
14(日)●千葉県銚子に水難救済会の救難所開所。
15(月)●第一生命保険相互設立(初の相互保険会社)。
16(火)●文部省、高等女学校での修身・しつけ教育の徹底と生活取締り強化を全国高女に内訓。
17(水)●横浜電気鉄道、設立(後に市電に移管)。
18(木)●東京で釣り堀屋よそおう賭博場増加と新聞に。
19(金)●正岡子規、死去。三四歳。
20(土)●大阪商船、大阪―韓国・元山線を開設。
21(日)●鉄道技術者一〇人、技術援助のため渡清。
22(月)●露皇帝・ニコライ二世、フィンランドに露人総督を任命。フィンランドの自治権剥奪。
23(火)●練習艦「筑波」乗員七〇人、ストで軍法会議。
24(水)●内務省、幸徳秋水らの社会主義演説会を禁止。
25(木)●鉄道局と私鉄の関西鉄道が、大阪―名古屋間の速度・運賃値下げ競争自粛の覚書に調印。
26(金)●露、接収していた清国の関外鉄道(山海関から長城まで)を返還(30日、英も返還)。
●法制局長官・奥田義人、海軍費削減と帷幄上奏廃止案が桂太郎首相の拒否にあい依願退官。
27(土)●日露協会が発足(会長・榎本武揚)。
●山崎直方、日本に氷河が存在したと学会報告。
28(日)●関東から東北地方に暴風雨。足尾銅山では山崩れで三八人死亡、八〇人行方不明。
29(月)●長雨を苦に東京・浅草の女性露店商が自殺。
30(火)●米国の炭鉱スト長期化し、ニューヨークでは燃料節約のために学校閉鎖。

明治35年10月

1(水)●宮崎滔天、新体浪花節・桃中軒を組織。
●鈴木商店、神戸に設立(総支配人・金子直吉)。
2(木)●閣議、清国・韓国での事業経営費四七九万円支出を決定。京釜線敷設・日清銀行設立など。
3(金)●日銀、不況対策のためこの年二回目の公定歩合引き下げを実施。二銭から一銭八厘。
4(土)●軍服改良はかる陸軍、夏期用の白色を全廃。
5(日)●パリで作家、エミール・ゾラ(六二歳)の葬儀。
6(月)●横浜でペスト発生し二人死亡(27日発生地域の家屋七〇戸買い上げ焼却。作業員を隔離)。
7(火)●「大阪毎日新聞」に新聞初のコラム「硯滴」(現在の「余録」)始まる。
●興銀、ロンドンで初の公債五〇〇〇万円発行。
8(水)●松茸は雨量多く各産地とも大収穫、と新聞に。
9(木)●陸軍懲治隊条例公布。懲罰を受けて改悛の情のない兵士を収容(11月1日、姫路に設置)。
●「万朝報」に黒岩涙香訳「噫無情」連載開始。
10(金)●横浜の民間天文家・井上四郎が、明治一五年以来最大の彗星(四等星大)を発見。
11(土)●米国、居住許可証不所持の清国人を多数投獄。
12(日)●警視庁、委嘱・警察医らにペスト予防策を訓示。
13(月)●大阪内国勧業博出展の象や虎などが神戸到着。
14(火)●新潟三〇連隊、演習中に渡船転覆、五人溺死。
15(水)●警視庁、自転車の取締規則を改正。夜間のライト点灯・下駄履き運転禁止など。
16(木)●仏警察、科学捜査に初めて指紋を採用。
17(金)●京浜電気鉄道が開業。蒲田―羽田間。
18(土)●米汽船「コリア号」が横浜―サンフランシスコ間を新記録の一〇日一五時間一五分で航行。
19(日)●独の産業博閉幕。約五〇〇万人が入場。
20(月)●仏議会、政教分離問題を検討する委員会設置。
21(火)●奥羽北線、青森―秋田間が開通。
22(水)●青森県下、米不作で農家は半飢饉、と新聞に。
23(木)●天皇、東京・上野で開催の漆工競技会を巡覧。
24(金)●横須賀の特別軍艦観覧に七千余人殺到し混乱。
25(土)●十和田湖に鯉の稚魚七千余匹を初放流。
26(日)●摂津紡績と平野紡績が合併(ニチボーの前身)。
27(月)●山本権兵衛海相、戦艦三、巡洋艦三隻建造など第三期海軍拡張計画案を閣議に提出。
28(火)●東京府、ネズミ一匹二銭で買い上げと新聞に。
29(水)●日銀、製鉄所の資金不足補填のため政府に二〇〇万円を貸し付け(翌年6月、返済)。
30(木)●東京市区改正委、日本橋の魚河岸移転を決定。
31(金)●政府、国際仲裁裁判官に本野一郎を選任。

▲東洋英和校長・ラージの殺人犯判明（11月27日）強盗事件で服役中の男（写真）が、刑事の追及で自白。東京・麻布での凶行から12年、時効成立後だった。

「近事画報」

◀陸軍特別大演習を実施（11月10日）熊本県で13日まで、大山巌参謀総長のもと、南北両軍が対露戦を想定して激闘。写真は北軍の渡河突撃。11日には、天皇が統監した。

▼三池港が着工（11月）三井鉱山が石炭増産を見こみ、海上輸送ルート開拓のため、大牟田に建築。写真は、三井財閥顧問・井上馨を迎えた起工式。6年後の明治41年に完成した。

尾形光彦提供

◀山陽ホテル開業（11月1日）山陽鉄道会社が、山陽本線開通にともない、下関駅構内に建築。洋風木造２階建てで、鉄道ホテルの先駆となった。明治39年、国鉄直営となった。

那覇市歴史資料室提供

▶沖縄、悲願の「本土並み」地方自治（11月）政府の旧慣存続策のため大幅に遅滞。29年頃から、ようやく沖縄の行政機構が整い始めた。那覇でも、伝染病予防委（写真）が任命された。

「太陽」

▲釜山港改修工事（11月）明治9年の開港以来、日韓貿易の拠点だったが、前年に漢城（現・ソウル）と結ぶ京釜鉄道が起工され、大陸への中継点として改築が急がれた。

明治35年11月

1（土）●専売局、税務署が設置される。●東京─小樽間の連絡切符発売。一〇円一六銭。

2（日）●官営鉄道、京都の紅葉見物客のため新橋─京都間に初めて回遊列車運転。食堂車つき。

3（月）●英─ベルギー間に連絡電話架設。

4（火）●文芸誌「新小説」に掲載の島崎藤村「旧主人」が、風俗紊乱として発売禁止になる。

5（水）●農商務省、工場法案を各府県に回付。夜業禁止事項などに資本家は反発。

6（木）●英議会、宗教学校への政府監督権を増大する教育修正案を可決。

7（金）●万国価格表記信書、小包郵便物交換条約加盟を公布（12月1日、外国郵便小包などを開始）。

8（土）●兵庫県千種村で一二〇人拘留。官林盗伐容疑。

9（日）●タバコが不作で三割減、値上げ必至と新聞に。

10（月）●全国自転車大競走会、東京・上野公園で開催。

11（火）●熊本での陸軍特別大演習を天皇統監。

12（水）●川上音二郎が神奈川・茅ケ崎に俳優学校建設用地一五〇〇坪を購入、と新聞に。

13（木）●農工銀行大会開催、貯蓄銀行法改正など決議。

14（金）●東京帝大生・藤井実、帝大運動会一〇〇メートル競走で世界新の一〇秒二四を記録。

15（土）●横須賀で巡洋艦「新高」進水式。皇后臨席。

16（日）●札幌で北海道有志大会。大学設置など決議。

17（月）●矢野竜渓ら、社会問題講究会を結成。

18（火）●米国の玩具会社が熊のぬいぐるみ「テディ・ベア」を発売、大人気商品となる。

19（水）●大阪・鴻池新田の農民三〇〇人、天候不良で不作として小作料の引き下げ求め暴動化。

20（木）●大蔵省、「北清事変」による個人賠償金の支払いを開始。総額一四四万円。

21（金）●篠ノ井線、塩尻─篠ノ井間全通、信越線に連絡。

22（土）●京都・舞鶴新道が開通。府知事らが祝辞。

23（日）●台湾総督府、銀貨低落に対処し銅貨輸入禁止。

24（月）●「北清事変」に出兵した上海駐屯軍二百八十余人、長崎へ帰港（11月末までに引揚げ完了）。

25（火）●政友会総裁・伊藤博文、首相に影響力持つ京都の山県有朋を訪ね増税問題で会談。物別れ。

26（水）●米穀凶作の東北は清酒醸造手控えと新聞に。

27（木）●神戸製紙所、わら紙料製造設備を完工。

28（金）●女学生の堕落は最近の社会問題、と新聞に。

29（土）●京都・興正寺で火災、本堂など焼失。

30（日）●警視庁、構造設備の不備な寄席建物に改築命令（12月30日まで未落成の場合、営業停止）。

毎日新聞社

▲巡洋艦「対馬」進水（12月15日）呉工廠で建造、排水量約3300トン。日露戦争、第1次大戦で活躍。この年、「三笠」はじめ、駆逐艦など外国発注艦艇はすべて完成、回航された。

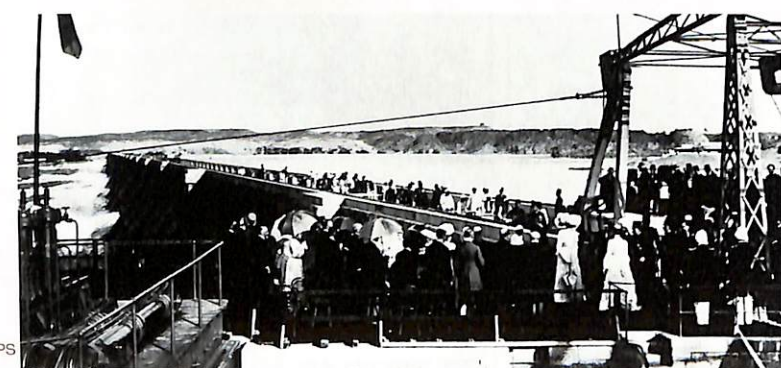
「近事画報」

▲教科書疑獄が発覚（12月17日）教科書会社と県知事や担当官ら157人が、教科書採用の贈収賄で検挙。教科書国定化の契機となった。写真は、摘発された最大手の出版社・金港堂。

ユニフォト・プレス

▲『ピーターラビットのおはなし』出版（12月）英・北部の湖水地方を愛したポター（写真）が、知人の子どもに送った絵入り手紙を編集。創作絵本の出発点に。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▼アスワン・ダム完成（12月10日）英国の協力により、エジプトの悲願成就。ナイル川を活用した、周辺農地への通年灌漑が可能になった。写真は完工式。

▲「世界第一最大最長」の映画（12月）トリック駆使の洋画が受け、映写時間15分の長尺物も登場。写真は長尺を誇る「ロビンソン・クルーソー」を上映の大阪・角座。

▲カーゾン提督、デリー入城（12月29日）エドワード7世の新インド皇帝就任を祝い、得意満面の行進。民族抑圧、ベンガル分割を促進して、民族運動に火をつけた。

明治35年12月

1（月）●平野岩五郎、初の紙製荷札を発売。

2（火）●国勢調査法公布（大正9年、第一回調査）。

3（水）●伊藤・大隈会談。地租増税継続反対と、政友・進歩提携に合意（4日、両党総会で決議）。

4（木）●内務省、利根・信濃・淀・吉野・高梁川の五大河川改修一〇ヵ年計画を策定。

5（金）●全国絹織物連合大会、輸出不振打開策を協議。

6（土）●東京市内で個人宅の郵便受けの郵便物盗難が頻発、注意が肝要、と新聞に。

7（日）●帝国教育会、学制頒布三〇年記念式を挙行。

8（月）●赤痢患者隠蔽で栃木県佐野の医師に罰金判決。

9（火）●大阪に人力車営業組合連合会が結成される。

10（水）●エジプト・ナイル川にアスワン・ダム完成。

11（木）●政府、地租を永久に海軍費とする地租増税継続案を議会提出（28日議会解散で審議未了）。

12（金）●商業会議所連合会、工場法案に反対決議。

13（土）●文部省、哲学館・中島徳蔵の倫理学講義を反国体とし同館の教員認可を取消し（哲学館事件）。

14（日）●米国、サンフランシスコ─ホノルル間の海底電線の敷設工事を開始（翌年1月完成）。

15（月）●呉海軍工廠で巡洋艦「対馬」進水式。

16（火）●丸善、『大英百科全書』（二五巻）の月賦販売予約を募集（翌年2月、予定の五〇〇部完売）。

17（水）●小学校教科書採用をめぐる贈収賄事件発覚。

18（木）●英、初等教育が地方自治体の管轄となる。

19（金）●訪日中のシャム（現・タイ）皇太子、参内。

20（土）●英・独・伊三国、ベネズエラの外債償還延滞のため海上封鎖を開始。

21（日）●中央西線、多治見─中津川間開通。

22（月）●埼玉・川越に初の幼年監開設。少年囚を収容。●韓国から第一回ハワイ移民一二一人が出発。

23（火）●英─カナダ間に大西洋無線電信が開通。

24（水）●東京・本所に東京初のペスト発生。三人罹患。

25（木）●ローマ教皇・レオ一三世、クリスマス・ミサで過激主義を否定しキリスト教民主主義を評価。

26（金）●三井物産、同社初の対清国投資として上海に上海紡織有限公司を設立。

27（土）●東京で学生による足尾銅山鉱毒地視察一周年記念の大演説会。大会後、一〇〇〇人がデモ。

28（日）●桂首相、地租継続案の採決直前に衆院を解散。

29（月）●津波被害の小田原は新年松飾り廃止と新聞に。

30（火）●仏、パナマ運河会社を米国に譲渡決定。

31（水）●教科書疑獄事件で栃木県知事、宮城県知事らを検挙（翌年3月までに一五七人検挙）。

俄楽多市（がらくたいち）

◀1年志願兵として、第1師団第3連隊に入営中の有島武郎（中央）。3月23日撮影。

流行語 学生が訴えた足尾の窮状

「路傍演説」。前年一二月二七日、七〇〇人の大学生が警察官の警戒網をかいくぐって足尾鉱毒地の視察に出かけ、帰京すると、街角で窮状を訴える演説会を開いた。中には二、三人で組んで地方へ演説行脚に出かける学生もあった。これが路傍演説で、学生のヒューマニズムの表れを意味していた。

「ミカド」。一月の日英同盟締結後、「ミカド」という言葉が流行、ミカド論もさかんになった。これは、ヨーロッパ最高の王室と日本の皇室が肩を並べたという国威発揚の意識から出たもので、ミカド・ホテル、ミカド・クラブからミカド・ダイコンなども登場した。

「提供」。丸善が『エンサイクロペディア・ブリタニカ（大英百科全書）』を発売。その宣伝で、offerという言葉を「提供」と訳した。文学者・内田魯庵の造語という。以来、「提供」という言葉が頻繁に使われるようになった。

「引きずりモチ」。店先にたむろしてイヤガラセをしたり、金をせびる男たちのこと。本来は臼を引いて家々をまわり、一升くらいの賃モチをつく商売のことだが、彼らの中には断ると、泥饅頭を投げこむなどイヤガラセを働くものが少なくなかったことから、ゆすり、たかりをこう呼ぶようになった。

レジャー 在米日本人の間でボウリングが大流行

〔シアトル発〕最近、当市在留の日本人のうち、各商店に通勤する人々の間に、ボウリングが大流行を見せており、すでにボウリング倶楽部も設立されてさかんに競技会を行っている。

元来、同市の同胞の間では日の出倶楽部という社交機関が組織されているが、いまだ一棟の家屋を借り入れる勇気もなく、月一回の集会も、日本人旅館の広間を借りている。このため日曜日や、夜仕事が終わった後、日本人同士で疲れを癒す設備もないところから、あやしげな"洞窟"へ足を踏み入れる人も多いが、ボウリング倶楽部は毎週水曜日に会合し、娯楽をともにする清潔な遊びとして、青年などに大好評である。

（「大阪朝日新聞」一月一四日）

◀庄田峯助画「名刺の運動」。選挙運動では名刺が大量にばらまかれるが、「名士でなくて名刺の運動とは驚いた」とある。「団団珍聞」六月七日号掲載。

日本漫画資料館提供

CM100年

ポスター「ネッスル・スウ井ス・ミルク 最モ滋養分ニ富ム」（ネスレ日本）

▶わが国初の、外国人デザイナーによるポスター。日英同盟締結を祝して作成されたもの。

食 岩手の酒造会社で発見 明治時代の酒の自販機

岩手県二戸市の久慈酒造会社で、明治時代のお酒の自販機が見つかった。この自販機は高さ約一・三メートル、幅四二センチ、奥行き三五センチで、外枠の材質は杉である。前部中央に「五銭白銅入り口」「ゆすぎ水出口」「酒出口」がそれぞれ設けられており、内側はゼンマイ仕掛けで、貯蔵された酒や水を供給する仕組みである。

同社は明治三五年創業で、その頃店先におかれていたらしいという。

（「河北新報」昭和六二年一一月一二日）

データ 東京は世界八位 主要都市の人口

ロンドンの人口が六六〇万人に達した。そのほかのおもな都市の人口は次のとおり。②ニューヨーク＝三四四万人、③パリ＝二七〇万人、④ベルリン＝一九〇万人、⑤シカゴ、ウィーン＝一七〇万人、⑦武漢＝一五〇万人、⑧東京＝一四五万人、⑨ペテルブルグ、フィラデルフィア＝一三〇万人。

（J・トレーガー『トピックス&エピソード 世界史大年表』）

はやり歌

陸奥の吹雪

作詞 落合直文　作曲 好楽居士

しら雪深く降り積もる
八甲田山の麓原
吹くや喇叭の声までも
凍るばかりの朝風を
物ともせずに雄々しくも
進み出でたる一大隊

田茂木野村を後にして
踏み分け登る八重の坂
雪はますます深うして
橇も動かぬ夕まぐれ
せんなく其所に露営せり
人はつららの枕して

朝くるを待ちてまた更に
前へ前へと進みしが
み空のけしき物すごく
忽ち日影かき暗し
行くも帰るも白雪の
果ては道さえ失いぬ

▶八甲田山で起きた死の雪中行軍を題材にした歌。添田唖蝉坊（あぜんぼう）らの作品もあったが、軍隊内ではこの歌が愛唱された。写真は、作詞の落合直文。

嗚呼玉杯に花うけて

作詞 矢野勘治　作曲 楠 正一

嗚呼玉杯に花うけて
緑酒に月の影やどし
治安の夢に耽りたる
栄華の巷低く見て
向ガ岡にそそり立つ
五寮の健児意気高し

芙蓉の雪の精をとり
芳野の花の華を奪い
清き心の益良雄が
剣と筆とをとり持ちて
一たび起たば何事か
人世の偉業成らざらん

◀第一高等学校（現・東京大学教養学部）の第一二回記念祭で作られた寮歌。写真は、一高運動場の桜並木の下にたたずむ一高生。

三面記事 出獄人引き取り稼業

東京・浅草公園界隈から吉原までの間には、出獄人の引き取りを稼業とするものが四四人いる。どのような仕事をしているかと言えば、空き巣、かっ払いの常習犯で引き取り人のない無宿人は、出獄に際し、いろいろと警察の制約を受けることが多いため、それを避けるために、金を払って引き取り屋に身柄を引き受けてもらうのである。その相場は大人三〇銭、小僧二五銭なり。三犯、五犯の常習ともなれば、この稼業のものとも顔見知りになるから、出獄者に金がなくとも引き取りを承諾する。出獄したものは三、四日滞在し、その間に空き巣やかっ払いなどで稼いで、礼金をおいて、いずこともなく去っていくのである。

ただし初犯のものはその場で払わなければ、身柄を引き取ってもらえない。これは初犯には、すぐに立ち去って、人に知られない土地へ行こうとするものが多く、金の取りはぐれを警戒するのである。金さえもらえば、どこへ行こうと勝手で、彼らが消えたら、引き取り屋は「私方へ参らず、途中より逃亡致し候儀と存じ奉り候」という書面を警察に提出して、責任のふりかからぬようにしている。

（「風俗画報」一一月一〇日号）

▶大関梅ケ谷（左）が一月場所で全勝優勝。「梅・常陸」の時代が始まる。

毎日新聞社

流行 「御用」の文字が氾濫 告諭を発した警視庁

最近、「御用」という文字が商売を問わず、いろんなところで乱用され、中には魚屋、八百屋まで法被の背中に「御用」の二文字を染め抜いているものさえ見受けられる。これが見苦しいというので、警視庁が一月一八日、左のような告諭を発した。

「近来、帝室御用、東宮御用、宮内省御用などのほか、皇室に関する文字を商品や商品の容器、法被、引き札（ちらし広告）、広告、看板などに乱用する者、しばしばこれあり。これは従来禁制せられたる儀につき、心得違いのないよう、あつく注意すべし」

（「日本新聞」一月一九日）

科学 マンモスの死体発見 ただ今ソリで運送中

昨年九月、シベリア・エブロソフカ付近で、ヘルツ博士によって発見されたマンモスを、英国「デーリー・メール」紙の通信員が実見し、このほど露都へ帰還した。それによるとマンモスは二〇〇フィートの断崖から落下したもので、舌だけで一九インチ、尾は一四インチ以上あった。背中と鼻の一部をのぞけば全身完備し、赤茶色の粗毛におおわれていたという。

一行は一〇月末、イルクーツクまで三〇〇〇マイルの帰路に向かって出発したが、その間はソリによって運送するしか方法がないところから、マンモスの体軀を細分化して運びつつあるという。

（「大阪朝日新聞」四月一二日）

▲東京市内の小学校の優等生が集められ、褒賞が授与された。式終了後、全員で記念撮影。

◀この年横浜の業者が輸入した、ガソリンエンジンの三輪乗用車「オードライ号」。

毎日新聞社

この年の初もの 五五歳定年制を日本郵船が導入

●**電柱広告** 五月、警視庁が許可場所は人道と車道の区分のある街路に限定され、麴町通りや飯田町に登場。

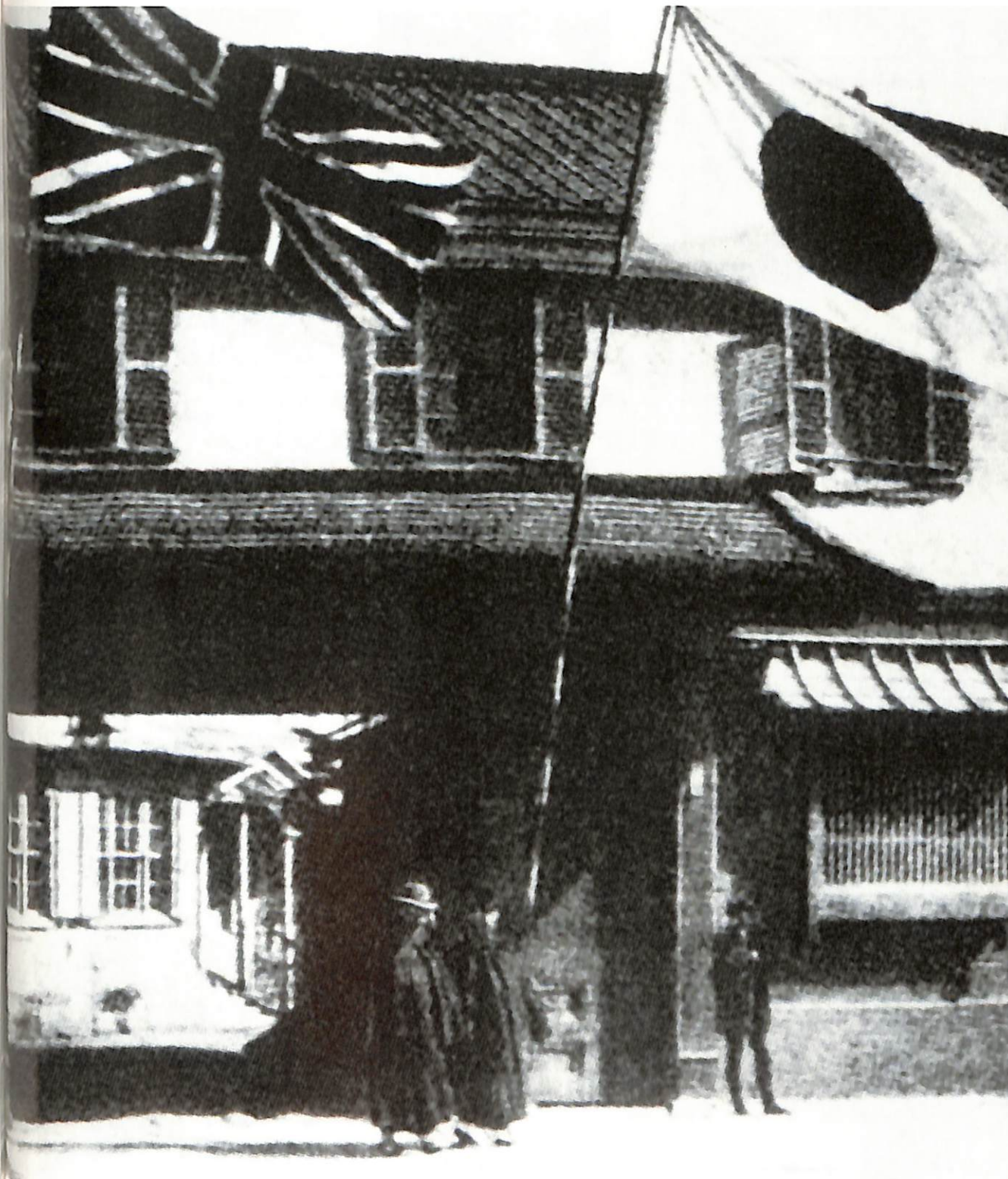
●**卓球** 六月にイギリス留学から帰国した、坪井玄道（東京高等師範学校教授）が紹介。

●**ガス暖房** 新築された大隈重信邸に設置。

●**恐竜の化石** アメリカ・モンタナ州で、バーナム・ブラウンにより恐竜のティラノサウルスの化石が発見される。

「二十世紀になる匆々、夜が明けたような気がした」

ロシアの中国、朝鮮への進出を背景に

国運を賭けて「日英同盟」締結！

▲日露開戦直後の明治37年2月、英国に発注していた「日進」「春日」の両軍艦が横須賀に到着。写真は、英国人乗組員の宿舎。

明治三五年一月、極東の新興国にすぎなかった日本は、英国との間にロシアの極東戦略に対する共同防衛条約「日英同盟」を結んだ。反対派の筆頭だった伊藤博文前首相は締結後、「一国と一国との間に結ばれたる約束は、国をあげての約束なるが故に、これを変更すべきものにあらず」と語ったが、その言葉どおり、この同盟は日露開戦、第一次世界大戦への参戦など、以後二一年間にわたり、日本の外交政策に影響力を持ち続ける。

日英相互の思惑を利用しドイツがきっかけを作る

「諸君、本日、この議場において国際上重要なる事件を報告するを得るは最も光栄とするところなり――」

桂太郎首相（五四）が枢密院において、協約文六ヵ条からなる「日英同盟」の締結を発表したのは、明治三五年（一九〇二）二月一三日午前九時すぎ。顔を紅潮させた首相は、林董駐英公使（五二）とランズダウン英国外相が一月三〇日に調印した、この同盟の中身を朗読した。

「第一条で、日・英は清・韓国が他国に侵害された時は必要な措置を取るとし、第二、第三条ではその侵害してきた国と日英のいずれかが交戦する時は中立を守り、二国以上と戦う場合は共同で作戦・講和にあたる。第四、六条では、他国と勝手に協定を結ばないことを約し、協定の期限を五年とする」（要旨）

演説が終わると、議場の政治家から耳をつんざくような喝采を受けたという。

欧州のいかなる列強とも同盟を結ばない〝栄光ある孤立〟を貫いてきた英国と、極東の新興国・日本が同盟を結んだことにマスコミは熱狂し、新聞は「東洋の平和の保証は此に至りて始めて成る」といった調子で書き立てた。

「提灯に釣鐘、お月様とすっぽんの縁組みができたようなもので、すっぽんにとってはうれしいことに違いなかった。誰もみな涙をこぼすほどよろこんだ。昨日の仇敵は今日の友、日の丸の旗とユニオンジャックのフラッグとをぶっ交いに、どこの家でも門口に立てて祝った。何だか二十世紀になる匆々、夜が明けたような気がした」（『明治大正見聞史』）

評論家の生方敏郎は、庶民の素直な喜びようをこのように書き残している。

もとはといえば、「日英同盟」の発端は明治三三年の「義和団事件」（北清事変）だった。英仏露など八ヵ国が中国に派兵し、〝帝国主義の観兵式〟と揶揄された排外運動鎮圧作戦に日本も参加。この時、〝帝国主義の研修生〟的存在だった日本が、英国に注目されたのだ。ロシアの遼東半島と韓国進出にあせりを抱く英国の目には、日本が「極東の番兵」になりうる国に映った。

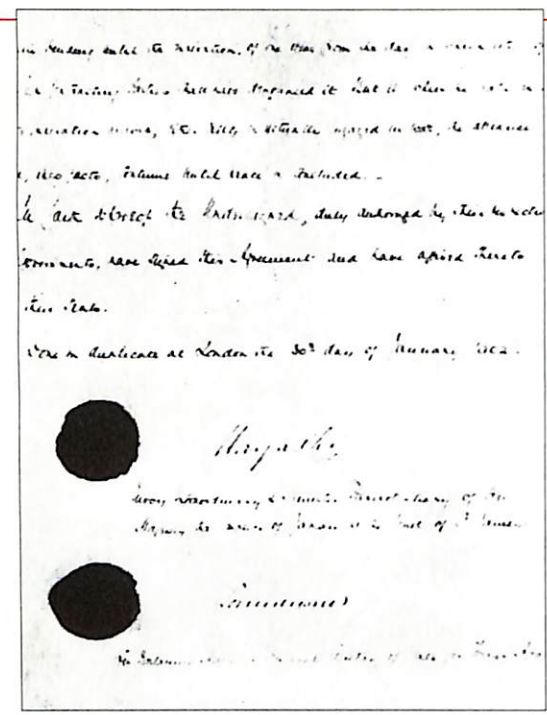
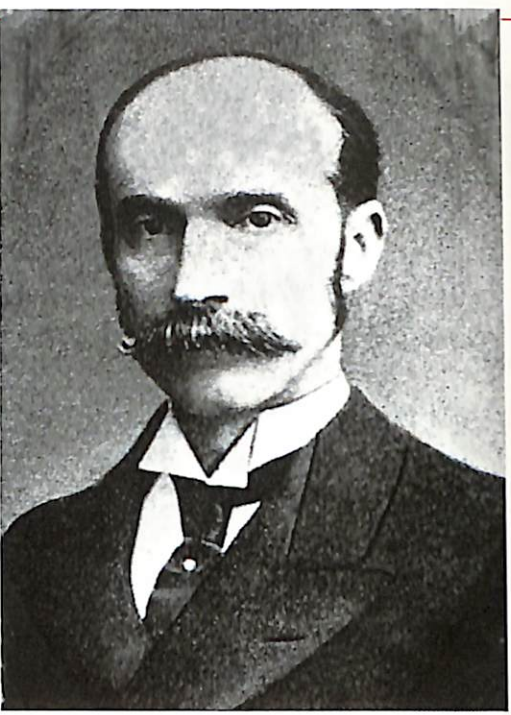
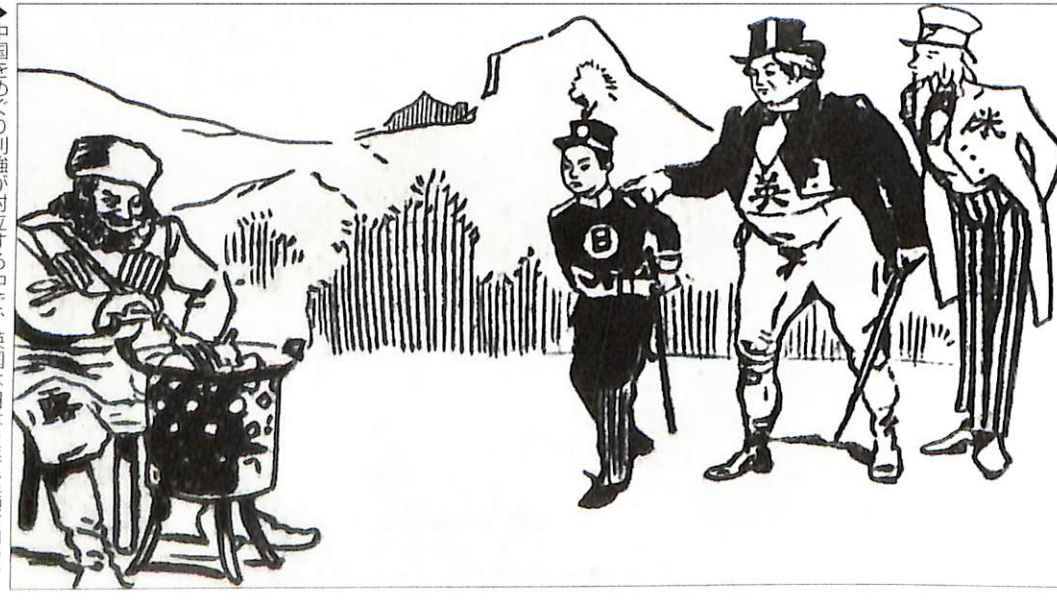
一方の日本は、ロシアの野心的な中国進出に歯止めをかけるため、列強各国と足並みをそろえる必要に迫られていた。

これに、ロシアの軍事圧力を欧州から極東に転じたいドイツが、日英の思惑を利用して黒子として立ち回り、「日英同盟」成立のきっかけを作ったのだ。林董は、著書『日英同盟の真相』の中で、明治三四年、駐英ドイツ大使館の代理大使だった「エカードスタイン男（爵）が、我輩を訪ねて来て、日英独三国同盟のことを頻りと勧誘した」と述べている。

親露派か親英派か権力者同士の確執

日英独の虚々実々の駆け引きの産物だった「日英同盟」は、締結直前まで、国内でも権力者同士の確執を招いていた。対露接近か対英接近か――。二つの選択肢のうち、前者の「日露協商」を主張したのは元老の伊藤博文前首相（六〇）と井上馨（六六）らで、後者の「日英同盟」を支持したのは、元老の山県有朋（六三）、桂首相らだった。

両者の言い分を要約すると――伊藤を筆頭とする「日露協商」派は、ロシアの満州（中国東北部）進出を認める代わりに、韓国における日本の優先権をロシアに承認させるという利害調整論（満韓交換論）。一方、桂首相などの「日英同盟」派は、日露の利害対立は不可避とし、日英同盟を背景にロシアを満州から駆逐するという対立必至論だった。

こうした確執を尻目に、明治三四年一〇月一六日、「日英同盟」派の林駐英公使が、英国政府と正式に交渉を開始した最中、伊藤は独断でロシアに渡る。一私人として、「日露協商」の可能性をロシ

▶日英同盟協約正文と両国代表。協約は明治三五年一月調印、イギリス外相・ランズダウン（右）と駐英公使・林董（左）が署名した。

▶中国をめぐり列強が対立する中で、英国は日本と手を結びロシアにあたらせて、漁夫の利を得ようとしている、という風刺画。

外から見たNIPPON

ラフカディオ・ハーンが愛した〝旧い日本〟と近代化の波

——佐伯 修

「僕に男の子が三人あることは君は知って居ると思う。みんな丈夫な子だ——長男は今までのところ稍々おとなし過ぎるが。僕は講義時間を除いて全然旧日本の中に暮して居る。そしてあの『もののあわれ』さえ無ければ、幸福だと思っても宜い。固よりのこと僕は幾分か老人になった（中略）。それからまた僕は不愉快な物事を言うに言われぬほど沢山知らねばならなかった。だが、此処の人達がいうように、シカタガナイ—已むを得ぬ—のだ」（大谷正信訳）

明治二三年に米国から来日し、松江、熊本で暮らした文学者、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲、一八五〇〜一九〇四）が、東京帝国大学文科大学に英文学の講師として赴任するため、上京したのは明治二九年だった。そして、この年、彼は終の棲みかとなる西大久保に転居したが、それは、ちょうど現在の新宿歌舞伎町と大久保ラブホテル街の境界あたりだった。右に引用したのは、そんな時期のハーンが、一一歳年下の友人、エルウッド・ヘンドリックスにあてた書簡の一節だが、そこには、巨大化の一途をたどる東京とも、大学の機構や人間関係とも、近代化や合理主義の流れとも、ついに折り合えなかったハーンの苦悩が滲み出ている。

▲ハーンと教え子・大谷正信。

ギリシャ女性と、そこに駐留するアイルランド系英軍人の間に、レフカディオス・ヘルンとして生まれたハーンは、少年時代に父母と離別、英国でカトリックの教育を受けたが、事故で左眼を失明、米国に渡りジャーナリストとなった。黒人系の女性との最初の結婚は、当時の米国社会の圧力により破綻。松江で出会った二度目の妻・セツ（節子）があげるハーンの「好きな物」＝「西、夕焼、夏、海、遊泳、芭蕉、杉、淋しい墓地、虫、怪談、浦島、蓬萊」など、「嫌いな物」＝「うそつき、弱いものいじめ、フロックコートやワイシャツ」（小泉セツ「思い出の記」）などは、彼の人間像を端的にものがたる。

さて、冒頭の続きでハーンは述べている。

「日本は、君の想像し得るように、急速に変化しつつある。そしてその変化は美しいものでは無い。僕は旧い空気の——日本の絵に跨って居るのを君が見たことのある彼の朝の色の霞の帯のように、此処彼処にたゆたうて居る旧い空気の——破片の裡に居るようにと力めて居る。高まり行く蜃気楼のその花冠の裡に、総てはまだ仙境である。そして僕の家庭はいつも幾千年前の空気を有って居るであろう。だが、外の生の光りで見ると、日本の変化は醜いもの傷ましいものである」

ア首脳と話し合うためのペテルブルグ訪問だった。

伊藤は、みずから対露交渉を仕掛けている裏で、桂首相の指示のもと、日英交渉が進行しているとは知らなかった。そこで彼がロシア入りする前に、「巴里へ遣て来た所、我輩（林公使）から其辺（日英同盟の草案）の報告を耳にしたものだから、余程当惑して、一時は進退に窮すると云う様子に見えた」（『日英同盟の真相』）という。

交渉の妨害工作も水面下で展開されていたようで、伊藤の外遊に幕僚長として随行した都筑馨六（後に枢密顧問官）などは、日英同盟派に行った交渉妨害について、「行為は卑劣譎詐、唯是自己の功を見はさんことを目的とする者にて賤むべき者なり」と、林の著書の中で名ざしで批判されている。

しかし、主張は異なるものの、日本の国益上プラスになるかどうかを見定めようとする点においては、伊藤も桂も冷徹で慎重なリアリストだった。

そして、結果的に日本の〝二股外交〟が、英国のイライラを募らせ、「日英同盟」の締結を早めることになった。

「ロシアの飽くなき野心をおそれ、〝海外事なかれ主義者〟でもあった伊藤は、この機を逸したら二度と『日露協商』締結の機会はなくなると考え、明治三四年一二月九日に明治天皇の裁断が下るその瞬間まで自説を主張しました。一方の桂首相は、国際的地位の上昇、財政上の便益、軍備増強と、どれをとっても『日英同盟』の方がメリットも大きいと考えていた。この親露派と親英派の論争は、当時としては親英派に利があったわけです」

と東北大学の黒羽茂名誉教授は語る。

「日英同盟」の締結後、ロシアの満州に対する野心は一層露骨となり、伊藤の憂慮したとおり、両国の関係は日露戦争に向けて悪化の一途をたどった。

さらに、この同盟を機に、日英両国陸海軍の関係が緊密化。七月八日には、共同作戦の指針を定めた「軍事協商」が成立した。日本は、それをもとに陸海軍の軍備を増強、目前の日露開戦に向け準備を進めることになる。

▶明治三八年八月、第二回日英同盟協約が調印され、一〇月には英国艦隊が来日。日比谷公園で交歓会が開かれた。

「グラビック」

◀9月29日　エミール・ゾラ(62)
仏の小説家。一八八〇年『ナナ』を発表。ドレフュス事件では、ドレフュス弁護のために闘い、一時、英国に亡命した。

▶11月22日　F・A・クルップ(48)
独の製鋼業者。著名な兵器工場経営者、A・クルップの息子で、装甲鋼板などを製造し、クルップ王国の一翼を担う。

PPS

矯正協会矯正図書館提供

▲5月28日　小原重哉(67)
官僚。幕末は尊攘運動を展開。維新後司法省で監獄法を改良。内務省監獄局次長、貴族院議員などを歴任。

ARCHIVE PHOTOS

▲2月18日　C・L・ティファニー(90)
米の宝石商で、1851年ティファニー社を創設。流行の商品を生み、英国・ビクトリア女王などを顧客に持った。

▲3月26日　C・J・ローズ(48)
英の植民地政治家。南アフリカに移住後、金・ダイヤモンド鉱山で巨富を得、1890年ケープ植民地の首相に就任。

▲12月7日　佐野常民(79)
政治家。文久3年（1863）日本初の蒸気船建造。明治10年博愛社を創設、20年日本赤十字社と改称し、初代社長。

毎日新聞社

▲8月18日　西村茂樹(74)
啓蒙思想家。明治9年東京修身学社創設。20年日本弘道会と改称、日本道徳を提唱し、国粋主義の先駆となった。

▲7月18日　西郷従道(59)
軍人、政治家。西郷隆盛の弟。明治18年海相に就任、以後も歴代内閣の海相・内相を歴任。「薩の海軍」の重鎮。

▲12月24日　高山樗牛(31)
明治期の代表的な評論家。日本主義の後、個人主義を鼓吹、青年層に強い影響を与えた。作品に「美的生活を論ず」。

▲9月8日　長与専斎(63)
幕末・明治期の蘭方医。明治7年の医制発布に尽力し、翌年内務省初代衛生局長に就任、衛生行政の基礎を築く。

毎日新聞社

▲7月23日　宇都宮三郎(67)
化学技術者。維新後工部省に入り、明治15年工部大技師長。セメントや耐火煉瓦製造、酒の醸造法などを手がけた。

井上眼科病院提供

▲5月12日　井上達七郎(33)
医者。近代眼科の草分け・井上達也の息子。ドイツ留学後、『眼科衛生学』などの著書により体系化を試みた。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第83号 10月13日(火)発売 定価560円 本体533円
毎週火曜日発売 講談社

1903［明治36年］

●特集
「フライヤー一号」で初飛行三六㍍ ライト兄弟、世紀の一二秒間！／「日く『不可解』」と華厳滝に投身自殺！ 一高生・藤村操の"明治の青春"／日本初のグルメ小説が超人気！ 村井弦斎「食道楽」のレシピ七〇〇／冷蔵庫とイルミネーションに殺到！ 第五回大阪「内国勧業博」の経済効果

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…久邇宮良子(現・皇太后)誕生(3月6日)／露・クロパトキン陸相来日(6月12日)／米富豪・モルガン、祇園の芸妓・お雪を落籍(9月30日)／米大リーグ、第一回ワールドシリーズ(10月1日)／週刊「平民新聞」創刊(11月15日)／連合艦隊編成(12月28日)

●人物クローズアップ
山本権兵衛、東郷平八郎を抜擢！

●決定的瞬間
キュリー夫妻、ノーベル賞に輝く！

●美の出会い
浅井忠、京都に洋画研究所設立

●女たちの肖像…羽仁もと子、「家庭之友」創刊／勝者・敗者…梅ケ谷・常陸山、横綱同時昇進！／証言・あの日この日…六田山花袋、泉鏡花／「現場」を歩く…六甲に「神戸ゴルフ倶楽部」オープン／20世紀博物館…相撲博物館(東京)／外から見たNIPPON…英国人・スミスが記録した"明治の風物"

●ベストセラー…荷風訳『女優ナナ』／スターと名場面…川上貞奴、本邦デビュー／モノ語り'03…「ライオン固煉歯磨」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付しました。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中（既刊82冊！ 1910・1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九二〇年代

第62号1921［大正10年］ 第63号1922［大正11年］ 第28号1923［大正12年］ 第64号1924［大正13年］ 第65号1925［大正14年］ 第66号1926［昭和元年］ 第67号1927［昭和2年］ 第68号1928［昭和3年］ 第69号1929［昭和4年］ 第70号1930［昭和5年］

一九三〇年代

第43号1931［昭和6年］ 第44号1932［昭和7年］ 第45号1933［昭和8年］ 第46号1934［昭和9年］ 第47号1935［昭和10年］ 第48号1936［昭和11年］ 第49号1937［昭和12年］ 第50号1938［昭和13年］ 第51号1939［昭和14年］ 第52号1940［昭和15年］

一九四〇年代

第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第3号1945［昭和20年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］

一九五〇年代

第36号1951［昭和26年］ 第37号1952［昭和27年］ 第38号1953［昭和28年］ 第39号1954［昭和29年］ 第40号1955［昭和30年］ 第41号1956［昭和31年］ 第42号1957［昭和32年］ 第6号1958［昭和33年］ 創刊号1959［昭和34年］ 第11号1960［昭和35年］

一九一〇年代

第77号1917［大正6年］ 第78号1918［大正7年］ 第79号1919［大正8年］ 第80号1920［大正9年］ 最新刊［一九〇〇年代］ 第81号1901［明治34年］

■今後の刊行予定

▶第84号1904［明治37年］10月20日発売
旅順攻略戦136日●日本軍"脚気大論争"●日本初の百貨店「三越」誕生！●サイ・ヤング、初の完全試合

▶第85号1905［明治38年］10月27日発売
日本海海戦の大勝利！●「日比谷焼き打ち事件」●漱石「吾輩は猫である」●戦艦「ポチョムキン」の叛乱

▶第86号1906［明治39年］11月2日発売
「満鉄」が育てた"頭脳集団"●「松山収容所」抑留記●「成金」第1号・鈴久●「ドレフュス事件」、無罪確定！

▶第87号1907［明治40年］11月10日発売
オーレル・スタイン、敦煌を探検●「華族令」改正●明治期最大「足尾暴動」！●「ハーグ密使事件」の暗転！

▶第88号1908［明治41年］11月17日発売
清朝最後の独裁者・西太后死す！●第1回ブラジル移民●「味の素」製造開始！●「ツングースカ大爆発」

▶第89号1909［明治42年］11月24日発売
伊藤博文暗殺！●生糸"世界一"と「女工哀史」●渋沢栄一「引退宣言」の衝撃●「北極点征服」大論争

ミニ事典
1902年のキーワード

バグダッド鉄道
トルコのハイダル・パシャ（イスタンブールのアナトリア側の対岸）から、バグダッドを経てペルシャ湾岸のバスラへいたる鉄道。一月一六日、オスマン帝国が、英仏の反対の中、ドイツに敷設権を与え、翌年、着工。ベルリン―ビザンティウム―バグダッドを鉄道でつなぐ、三B政策によってバルカン、小アジア、ペルシャ湾の覇権獲得をねらうドイツの国家事業となった。

▲1903年に着工(写真)。第1次世界大戦で中断したが、イラクなどが再開し1940年開通した。

馬蹄銀分捕り事件
「義和団事件」で中国に出兵した、第五師団（広島）の将兵が、馬蹄形をした中国の貨幣、馬蹄銀などを略奪して帰国したとされる事件。一月に衆議院で問題化。二月五日、広島区裁判所が粟屋幹連隊長宅などで馬蹄銀を押収した。五月に開かれた軍法会議で、連隊長ら三人に、馬蹄銀は略奪品ではなく戦利品であるとして、無罪が言い渡された。しかし、その行為は職務権限を逸脱しているとして、停職処分となった。

弘文学院
清国留学生に日本語そのほかの予備教育を行った学校。東京高等師範学校校長・嘉納治五郎の私塾、亦楽書院から発展、一月に東京・牛込に校舎を設け、嘉納が院長となった。修業年限は速成科が一～二年、普通本科が三年、最大五〇〇人収容の寄宿舎があった。最盛期は日露戦争後で、数千人に達した。この年一月開校の東京同文書院も、同趣旨の学校。

「ツァーリの歌」
「神はツァーリ（ロシア皇帝）を守り給え」などを歌詞とするロシア国歌。植民地・ポーランドのロシア化政策を進めるロシアは、ロシア語の強制のほか、祝日にロシア国歌を歌うことを義務づけた。三月一三日、高等中学校生徒がこれを拒否。多数の学校が閉鎖に追いこまれた。

国語調査委員会
国の言語・文字の統一・改善などについて調査・研究する目的で、文部省内に設けられた機関。東京帝大教授・国語学者の上田万年の提言で三月二五日に設立。背景に、近代国家の成立とともに急速に育った国語意識の高まりがあった。明治三八年には口語的慣用をどこまで許容するかを答申、明治末から大正にかけての言文一致運動を踏まえ、口語法の基準を発表するなど、この会が国語・国字の形成にはたした役割は大きい。

日本興業銀行
工業に対する長期資金の安定供給と、外資導入をおもな目的として発足した特殊銀行のひとつ。三月設立。総裁・添田寿一。日清戦争後、金子堅太郎らが、証券担保金融を行う動産銀行と、モルガン財閥などからの外資導入をはかる帝国工業銀行案として発案し、実現した。しかし、第一次世界大戦時までの業務は中国・朝鮮への投資、借款供与が主で、大正六年、朝鮮銀行・台湾銀行と組んで行った「西原借款」は著名。

▲日本興業銀行は、行員23人で開店。本店は、明治36年に現在の千代田区大手町に建てられた。

豚肉料理試食会
豚肉の普及促進をはかるため、東京・日暮里の養豚業者らが、三月二八日、特にその味になじめない女性を対象にした試食会。豚肉を西洋料理、日本料理、琉球料理、中国料理などのほか、西洋風・日本風の総菜に仕上げた。政府は明治三三年頃から英米の種豚をさかんに輸入し、養豚を奨励していたが、庶民に豚肉はまだまだ浸透していなかった。

毎日新聞社

▲6月6日、東京株式取引所は、設置条件の厳しさに大暴落して停会。再開したのは18日だった。

取引所令改正
明治二六年に制定された取引所令を、外資の流入をはかることなどとして改正したもの。六月三日公布。株式など各種取引所の資本金最低額の引き上げ、賠償責任の準備金積み立て、売買取引の契約履行期限の短縮などが求められた。しかしこの改正で取引所は大混乱におちいり、翌年、衆議院で糾弾された桂内閣は、農商務相・平田東助の辞任、賠償責任準備金の軽減などで窮地をしのいだ。

呉海軍工廠争議
管理強化に反対し、呉工廠労働者が起こした争議。七月一五日夜、遅刻者の減俸などを強いられた労働者の憤懣が爆発、約五〇〇〇人が暴動を起こし、翌日から怠業に入った。一九日、廠長が解任され解決。しかし、この頃は、日露戦争を前に、各工廠の合理化・労働強化が目立ち、同月二二日には大阪砲兵工廠でも待遇改善を求めて職工一〇〇人がスト、八月には東京砲兵工廠で、古参職工解雇などに反対する争議が起こった。

紅葉回遊列車
連休を利用して京都で紅葉狩りをと企画された、官営鉄道の臨時列車。一一月二日新橋発、車中泊して翌日、京都で遊び、車中泊して四日に新橋に戻った。二等車五両、食堂車一両、新聞記者用一両など計八両編成で、往復五割引の七円。不景気な年の贅沢な催しだったが、一八〇人が参加する人気となった。

哲学館事件
東京の哲学館（後の東洋大学）で起きた思想弾圧事件。中島徳蔵がムーアヘッド著『倫理学』から出した卒業試験問題の「動機が善であれば弑虐も認められる」が、視学官によって国体上軽視しえないと問題にされ、一二月一三日、同館は中学校などの教員免許の資格を取り消された。中島は哲学館を辞し、私学に対する当局の不当な介入を批判。学問の自由・私学の独立の議論が沸いた。同館は明治四〇年、資格を回復した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1902

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室〔茂村巨利〕＋渡邉裕
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　有エービーシープレス　株カマル社　株コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　有マックス　有マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　菊地美優貴　小松邦宏　張替政展
藤森雅弘　森邦久　結城順一　吉田忠正

●写真協力
石井行昌　石井美雄　伊藤秀雄　江頭徹　太田公平　尾形光彦　片山章雄　川上富司　河音能平　北川太一　小林源次郎　近藤千浪　但馬一憲　徳川文武　本多隆成
ARCHIVE PHOTOS　アメリカンフォト・ライブラリー　「イリュストラシオン」　岩手日報社　CORBIS・BETTMANN　東奥日報社　ナショナル・ジオグラフィック・マガジン　西日本新聞社　日刊自動車新聞社　PPS　毎日新聞社　みすず書房　ユニフォト・プレス　ROGER VIOLLET
伊東家　井上眼科病院　梅屋　日本生命　五十嵐健治洗濯資料館　がす資料館　嬬恋郷土資料館　安芸市立歴史民俗資料館　京都府立総合資料館　高知県立文学館　国立国会図書館　古文書複製社　三康図書館　子規庵保存会　逓信総合博物館　東京都立中央図書館　東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫　東京女子医科大学　那覇市歴史資料室　日比谷図書館　日本近代文学館　日本建築学会　日本漫画資料館　野口英世記念会　野間教育研究所　ハカリの小歴史館　原敬記念館　藤沢市　北海道開拓記念館　松戸市戸定歴史館　松山市立子規記念館　三井文庫　陸上自衛隊弘前駐屯地広報室　龍谷大学大宮図書館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

HAVAS

”カード派“札入れ

Cardlet ミネルバ

Cardlet®

カードレット

15枚のカードをスリムに収納 ――

従来の札入れは内側にカード段が付いているだけなので、少量のカードしか収納できないのが現状です。しかし今はカードの時代。
多種多様のカードを必携しなければなりません。そこで考え出されたのが“カードレット”。
札入れに差込式のビニール製2段式カードホルダーをとり入れることによって計15枚のカードをスリムに収納することが可能になりました。
サイズも11cm×13.5cmと非常にコンパクト。スーツの内ポケットやスラックスのポケットに入れてお使い頂けます。

●Cardlet®〈カードレット〉 11cm×13.5cm
ミネルバ ¥10,000(税抜) col.ブラック、ブラウン　ウェルチ ¥13,000(税抜) col.ブラック、ブラウン

［ハバス ショップ］
新宿髙島屋9F 文具売場　Tel.／Fax.03-5361-1594
赤坂東急プラザ2F　Tel.／Fax.03-3595-0558
(地下鉄「赤坂見附」、「永田町」より1分)

“Having Goods”の提案

バッグや革小物といった収納用品が大衆に広く普及したのは工業化社会が到来した今からおよそ80年前。そして現在 ――。
電話やパソコンの携帯化など、身の回りの持ち物に大きな変化が現われてきている一方で、依然としてそのクラシカルなスタイルを踏襲し続けている収納用品に、不都合を感じるケースがではじめています。今、バッグや革小物といった収納用品に求められているのは、“機能・軽量・コンパクト”。私達は従来の型にはとらわれず、機能性と使いやすさを最優先に考えた革新的な収納用品を“Having Goods”というくくりで、世の中に提案していきたいと考えています。『時代に対応した多機能型収納用品の提案』 これがハバスのテーマです。

HAVAS
チャンドラー株式会社
〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-14
Tel.03-3267-3971 Fax.03-3267-5095

第2巻第39号 通巻82号
雑誌 23713-10/20
Ⓛ-2001/1/1
T1123713100566

印刷　凸版印刷株式会社　製本　大村製本株式会社